

4 野菜の防除基準

トマト病害防除農薬一覧①

農薬名	RAC コード	有効成分名	本剤の 使用回数	当該成分を 含む農薬の 総使用回数	適用病害名									
					苗立枯病	疫病	葉かび病	すすかび病	輪紋病	斑点病	灰色かび病	うどんこ病	斑点細菌病	かいよう病
ゲッター水和剤	10	ジエトフェンカルブ	5	6			○				○			
	1	チオファネートメチル		6※1										
エトフィンフロアブル	22	エタボキサム	4	4		○								
プロパティフロアブル	50	ピリオフェノン	2	2								○		
バシタック水和剤75	7	メプロニル	1	2※2	○ ※a									
カンタスドライフロアブル	7	ボスカリド	3	3			○				○			
アフエットフロアブル	7	ペンチオピラド	3	3			○	○			○	○		
ベジセイバー	7	ペンチオピラド	3	3		○	○	○			○	○		
	M5	T P N		6※3										
ファンタジスタ顆粒水和剤	11	ピリベンカルブ	3	3			○	○		○	○			
ホライズンドライフロアブル	27	シモキサニル	3	3		○	○							
	11	ファモキサドン		3										
ランマンフロアブル	21	シアゾファミド	4	4		○								
ゾーベックエンテクタSE	21	アミスルブロム	2	4		○								
	49	オキサチアピプロリン		2										
フルピカフロアブル	9	メパニピリム	4	4							○			
ショウチノスケフロアブル	U13	フルチアニル	2	2							○	○		
	9	メパニピリム		4										
カッパーシン水和剤 カスミンボルドー	24	カスガマイシン	5	5		○	○		○				○	○
	M1	塩基性塩化銅		—										
マイコシールド	41	オキシテトラサイクリン	2	2										○
リゾレックス水和剤	14	トルクロホスメチル	1	1	○ ※a									
トリフミン乳剤	3	トリフルミゾール	5	5			○	○				○		
スコア顆粒水和剤	3	ジフェノコナゾール	3	3			○	○						
ラリー乳剤	3	ミクロブタニル	3	3			○	○						

※1 種子処理は1回以内、は種後は5回以内 ※2 種子処理は1回以内、土壌灌注は1回以内

※3 土壌灌注は2回以内、散布、常温煙霧、くん煙及びエアゾル剤の噴射は合計4回以内

※a リゾクトニア菌適用

トマト病害防除農薬一覧 ②

農 薬 名	R A C コ ー ド	有 効 成分名	本剤の 使 用 回 数	当該成分を 含む農薬の 総使用回数	適 用 病 害 名										
					苗 立 枯 病	疫 病	葉 か び 病	す す か び 病	輪 紋 病	斑 点 病	灰 色 か び 病	う ど ん こ 病	斑 点 細 菌 病	か い よ う 病	茎 え そ 細 菌 病
フェスティバル水和剤	40	ジメトモルフ	3	3		○									
プロポーズ顆粒水和剤	40	ベンチアバリカルブ イソプロピル	3	3		○	○								
	M5	T P N		6※3											
レーバスフロアブル	40	マンジプロパミド	3	3		○									
パンチョ T F 顆粒水和剤	U6	シフルフェナミド	2	2									○		
	3	トリフルミゾール		5											
ハーモメイト水溶剤	NC	炭酸水素ナトリウム	—	—							○ ※b	○ ※b			
ドイツボルドー A	M1	塩基性塩化銅	—	—		○	○			○					
Z ボルドー	M1	塩基性硫酸銅	—	—		○		○	○				○ ※c		
クプロシールド	M1	塩基性硫酸銅	—	—		○	○	○					○ ※b	○	
ジマンダイセン水和剤	M3	マンゼブ	2	2		○	○		○						
ペンコゼブフロアブル	M3	マンゼブ	2	2		○	○	○	○						
ジマンダイセンフロアブル						○	○								
リドミルゴールド M Z	M3	マンゼブ	2	2											
	4	メタラキシル M		5※4		○									
オーソサイド水和剤80	M4	キャプタン	1 (は種前)	5 (種子粉衣は 1回以内)	○										
			5 (は種後から 2～3葉期)		○										
			5			○	○			○					
フォリオゴールド	4	メタラキシル M	4	5※4											
	M5	T P N		6※3		○	○								
ダコニール1000	M5	T P N	4	6※3		○	○	○	○	○	○	○			
			2 (は種時 又は活着後)		○ ※a										
ベルコートフロアブル	M7	イミノクタジン アルベシル酸塩	3	3			○	○			○	○			
ボトキラー水和剤	BM2	バチルス ズブチリス	—	—							○ ※b	○ ※b			
インプレッションクリア	BM2	バチルス アミロリクエファシエン	—	—			○	○			○ ※b	○ ※b			
マスターピース水和剤	NC	シュードモナス ロデシア	—	—										○	○

※3 土壌灌注は2回以内、散布、常温煙霧、くん煙及びエアゾル剤の噴射は合計4回以内

※4 種子処理は1回以内、は種後は4回以内

※a リゾクトニア菌適用 ※b 野菜類登録 ※c 野菜類（キャベツを除く）登録

トマト害虫防除農薬一覧 ①

農薬名	RACコード	有効成分名	本剤の使用回数	当該成分を含む農薬の総使用回数	適用害虫名									
					コナジラミ類	アブラムシ類	ハモグリバエ類	アザミウマ類	オオタバコガ	ハスモンヨトウ	ハダニ類	トマトサビダニ	ネコブセンチュウ	トマトキバガ
ネマキック粒剤	1B	イミシアホス	1	1									○	
ネマトリンエース粒剤	1B	ホスチアゼート	1	2※1									○	
ガードホープ液剤	1B	ホスチアゼート	1	2※1								○	○	
アドマイヤー1粒剤	4A	イミダクロプリド	1(育苗期後半) 1(定植時)	3※2	○ ○	○								
アドマイヤーフロアブル	4A	イミダクロプリド	2	3※2	○	○								
モスピラン粒剤	4A	アセタミプリド	1(定植前日～当日)	4※3	○									
			1(定植時)		○	○	○※a							
			3			○								
モスピラン顆粒水溶剤	4A	アセタミプリド	3	4※3	○	○		○						
ベストガード粒剤	4A	ニテンピラム	1(は種時又は鉢上げ時)	4※4	○	○								
			1(育苗期)		○	○								
			1(育苗期後半)		○	○	○							
			1(定植時)		○	○	○							
ベストガード水溶剤	4A	ニテンピラム	3	4※4	○	○		○						
スタークル粒剤 アルバリン粒剤	4A	ジノテフラン	1(は種前)	5※5	○									
			1(育苗期)		○		○							
			1(定植時)		○	○	○							
			2		○	○								
スタークル顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤	4A	ジノテフラン	1(鉢上時又は定植時) 2	5※5	○ ○									
ダントツ水溶剤	4A	クロチアニジン	3	4※6	○	○	○							
アクタラ粒剤5	4A	チアメトキサム	1(育苗期後半)	4※7	○									
			1(定植時)		○		○							
アベイル粒剤	4A	アセタミプリド	1(育苗期後半)	4※3	○	○	○							
	28	シアントラニリブロール	～定植当日)	4※8										
トランスフォームフロアブル	4C	スルホキサフロル	2	2	○	○						○		
スピノエース顆粒水溶剤	5	スピノサド	2	2			○	○	○					
ダブルシューターSE	5	スピノサド	2	2	○		○	○	○		○			
	—	脂肪酸グリセリド		—										
ディアナSC	5	スピネトラム	2	2	○		○	○	○	○				○
コロナイト乳剤	6	ミルベメクチン	2	2	○		○					○		
アフーム乳剤	6	エマメクチン安息香酸塩	5	5	○		○		○			○		○
アニキ乳剤	6	レピメクチン	3	3	○		○	○※b	○	○		○		
アグリメック	6	アバメクチン	3	3	○		○※a	○				○		

※1 定植前の土壌混和は1回以内、土壌灌注は1回以内

※2 育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は2回以内

※3 粒剤の定植時までの処理は1回以内、散布、くん煙及び定植後の株元散布は合計3回以内

※4 定植時までの処理は1回以内、定植後の散布は3回以内 ※5 培土混和及び灌注は合計1回以内、育苗期株元散布は1回以内、定植時の土壌混和は1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計2回以内

※6 育苗期株元処理及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計3回以内

※7 定植時までの処理は1回以内、散布は3回以内

※8 定植時までの処理及び定植直後の株元灌注は合計1回以内、定植後の散布は3回以内

※a トマトハモグリバエ適用 ※b ミカンキイロアザミウマ適用

トマト害虫防除農薬一覧 ②

農薬名	RACコード	有効成分名	本剤の使用回数	当該成分を含む農薬の総使用回数	適用害虫名									
					コナジラミ類	アブラムシ類	ハモグリバエ類	アザミウマ類	オオタバコガ	ハスモンヨトウ	ハダニ類	トマトサビダニ	ネコブセンチュウ	トマトキバガ
チェス顆粒水和剤	9B	ピメトロジン	3	4※9	○	○								
コルト顆粒水和剤	9B	ピリフルキナゾン	3	3	○	○								
デルフィン顆粒水和剤	11A	B T (生菌)	—	—					○※c	○※c				
ゼンターリ顆粒水和剤	11A	B T (生菌)	—	—					○※d	○※d				○
エスマルクDF	11A	B T (生菌)	—	—					○※c					○
コテツフロアブル	13	クロルフェナピル	3	3				○※b	○		○※e	○		
マッチ乳剤	15	ルフェヌロン	4	4	○		○	○	○	○		○		
カスケード乳剤	15	フルフェノクスロン	4	4	○		○※f	○※b	○	○		○		
マトリックフロアブル	18	クロマフェノジド	3	3					○					
マイトコーネフロアブル	20D	ビフェナゼート	1	1							○	○		
トルネードエースDF	22A	インドキサカルブ	2	2					○	○				
クリアザールフロアブル	23	スピロメシフェン	2	2	○							○		
フェニックス顆粒水和剤	28	フルベンジアミド	2	2					○	○				
プレバソンフロアブル5	28	クロラントラニリプロール	1(育苗期後半～定植当日)	4※7	○		○							○
			3				○		○					○
ベネビアOD	28	シアントラニリプロール	3	4※8	○	○	○	○	○					
ベリマークSC	28	シアントラニリプロール	1(育苗期後半～定植当日)	4※8	○	○	○	○						
			1(定植直後)	4※8	○									
プリロッソ粒剤オメガ	28	シアントラニリプロール	1(育苗期後半～定植時)	4※8	○	○	○	○						
			1(鉢上げ時)		○									
ヨーバルフロアブル	28	テトラニリプロール	1(育苗期後半～定植当日)	4※10	○	○	○							
			3		○	○	○	○	○	○				
ウララDF	29	フロニカミド	3	3	○	○		○※b						
グレーシア乳剤	30	フルキサメタミド	2	2	○		○	○	○	○		○		○
ファインセーブフロアブル	34	フロメトキン	3	3	○※h			○				○		
プレオフロアブル	UN	ピリダリル	2	2			○		○	○				○
サンクリスタル乳剤	—	脂肪酸グリセリド	—	—	○	○					○	○		
粘着くん液剤	—	ヒドロキシプロピルデンブン	—	—	○※c	○※c					○※c			
サフオイル乳剤	—	調合油	—	—	○	○					○	○		
フーモン	—	ポリグリセリン脂肪酸エステル	—	—	○※c	○※c					○※c			
エンストリップ*	—	オンシツツヤコバチ	—	—	○※c									

※7 定植時までの処理は1回以内、散布は3回以内

※8 定植時までの処理及び定植直後の株元灌注は合計1回以内、定植後の散布は3回以内

※9 育苗期の株元散布及び定植時の植穴処理は合計1回以内、散布は3回以内

※10 灌注は1回以内、散布は3回以内 ※b ミカンキイロアザミウマ適用 ※c 野菜類登録

※d 野菜類（キャベツ、はくさいを除く）登録

※e ナミハダニ適用 ※f トマトハモグリバエ、マメハモグリバエ適用

* 施設栽培適用

病害虫名	防除時期及び防除法	使用時期-本剤の使用回数	注意事項
苗立枯病	○は種前 1 排水対策を行い、多湿にならないようにする。 2 土壌消毒（土壌消毒の頁参照） ○は種時～生育初期 オーソサイド水和剤80 800倍 2L/m ² 灌注 バシタック水和剤75 1,500倍 3L/m ² 土壌灌注 リゾレックス水和剤 500倍 3L/m ² 土壌灌注 ダコニール1000 1,000倍 3L/m ² 土壌灌注	は種後から2～3葉期 －5 は種時～子葉展開時 －1 は種時－1 は種時又は活着後 （定植14日後）－2	バシタック水和剤75、 リゾレックス水和剤、ダ コニール1000はリゾクト ニア菌適用。
疫病	○生育期 1 予防散布に重点をおき病葉は早期に摘み取る。 2 施設栽培では、施設内の換気を図り、多湿にならないようにする。 3 薬剤散布 Zボルドー 600倍 クプロシールド 2,000倍 ドイツボルドーA 500倍 カッパーシン水和剤 } 1,000倍 カスミンボルドー] リドミルゴールドMZ 1,000倍 ダコニール1000 1,000倍 プロポーズ顆粒水和剤 1,500倍 ペンコゼブフロアブル } 1,000倍 ジマンダイセンフロアブル] ホライズンドライフフロアブル 2,500倍 ランマンフロアブル 2,000倍 レーバスフロアブル 2,000倍 エトフィンフロアブル 1,000倍 ベジセイバー 1,000倍 フェスティバル水和剤 2,000倍 ゾーベックエンテクタSE 4,000倍	――― 発病前～発病初期―― ――― 前－5 前－2 前－4 前－3 前－2 前－3 前－4 前－3 前－4 前－3 前－3 前－2	1 リドミルゴールドM Z、ペンコゼブフロア ブル、ジマンダイセン フロアブルの総使用回 数は合わせて2回以内。 2 ダコニール1000、プロ ポーズ顆粒水和剤、ベ ジセイバーの総使用回 数は、3剤合わせて4 回以内。
葉かび病	○は種前 1 抵抗性品種を用いる。 2 資材消毒（資材消毒の頁参照） ○生育期 1 施設栽培では、施設内の換気を図り、多湿にならないようにする。 2 薬剤散布 ダコニール1000 1,000倍 オーソサイド水和剤80 800倍 フォリオゴールド 800倍 トリフミン乳剤 2,000倍 スコア顆粒水和剤 2,000倍 ラリー乳剤 5,000倍 ファンタジスタ顆粒水和剤 3,000倍 ホライズンドライフフロアブル 2,500倍 ベルコートフロアブル 4,000倍 インプレッションクリア 1,000倍	前－4 前－5 前－4 前－5 前－3 前－3 前－3 前－3 前－3 前－3 前－3 発病前～発病初期――	ダコニール1000とフォ リオゴールドの総使用回 数は合わせて4回以内。
すすかび病	○生育期 ダコニール1000 1,000倍 ベルコートフロアブル 4,000倍 トリフミン乳剤 2,000倍 スコア顆粒水和剤 2,000倍	前－4 前－3 前－5 前－3	

病害虫名	防除時期及び防除法	使用時期-本剤の使用回数	注意事項
輪紋病	○植付前 資材消毒(資材消毒の頁参照) ○生育期 1 株元の病葉は早期にかき取り、持ち出して適切に処分する。 2 薬剤散布 Zボルドー 600倍 ダコニール1000 1,000倍 カッパーシン水和剤 1,000倍 カスミンボルドー 800倍 ジマンダイセン水和剤	--- 前-4 前-5 前-2	
斑点病	○生育期 ドイツボルドーA 500倍 ファンタジスタ顆粒水和剤 3,000倍	--- 前-3	
灰色かび病	○生育期 1 耕種的防除に重点をおき、施設栽培では低温、多湿にならないよう換気、灌水に注意する。 2 予防散布に努め、発病初期の花卉、病果は早期に除去し、ハウス、トンネル外に出す。 3 薬剤散布 ゲッター水和剤 1,500倍 フルピカフロアブル 3,000倍 ベルクートフロアブル 4,000倍 カンタスドライフロアブル 1,500倍 アフェットフロアブル 2,000倍 ファンタジスタ顆粒水和剤 3,000倍 ハーモメイト水溶剤 800倍 ボトキラー水和剤 1,000倍 インプレッションクリア 2,000倍 4 ダクト内投入 ボトキラー水和剤 7.5g/10a/日	前-5 前-4 前-3 前-3 前-3 前-3 前-1 発病前～発病初期 発病前～発病初期 発病前～発病初期	同一系統薬剤の連用を避ける(野菜の灰色かび病、うどんこ病防除薬剤の系統分類の頁参照)。
うどんこ病	○生育期 ベルクートフロアブル 4,000倍 トリフミン乳剤 2,000倍 パンチョTF顆粒水和剤 2,000倍 プロパティフロアブル 3,000倍 ショウチノスケフロアブル 2,000倍 ハーモメイト水溶剤 1,000倍 ボトキラー水和剤 1,000倍 インプレッションクリア 2,000倍	前-3 前-5 前-2 前-2 前-2 前-1 発病前～発病初期 発病前～発病初期	1 同一系統薬剤の連用を避ける(野菜の灰色かび病、うどんこ病防除薬剤の系統分類の頁参照)。 2 トリフミン乳剤とパンチョTF顆粒水和剤の総使用回数は合わせて5回以内。
斑点細菌病	○は種、植付前 資材消毒(資材消毒の頁参照) ○生育期 Zボルドー 500倍 カッパーシン水和剤 1,000倍 カスミンボルドー	--- 前-5	

病害虫名	防除時期及び防除法	使用時期-本剤の使用回数	注意事項
モザイク病 (・T o MV ・CMV)	○は種前 連作は避け、耐病性品種を用いる (T o MV)。 ○育苗期 苗床は防虫ネットを張り、アブラムシ類の 飛来を防ぐ。 ○生育期 1 被害株は早期に抜き取り、適切に処分 する。 2 芽かき、誘引は、曇雨天や露のあ るときは避ける。		
黄化えそ病 (T SWV)	○は種前・生育期 施設内外の除草を徹底する。 ○生育期 アザミウマ類の防除を徹底する。		
黄化葉巻病 (T Y L C V)	○は種前・生育期 1 タバココナジラミ侵入防止のため0.4mm 目の防虫ネットをハウスの開口部に設置 する。 2 タバココナジラミの防除を徹底する。 3 耐病性品種を用いる。 4 施設内外の除草を徹底する。 5 被害株は早期に抜き取り、適切に処分す る。 ○栽培終了後 半促成栽培では、栽培終了後10日以上密閉 するなどしてタバココナジラミを死滅させ てから片付け、次作へ虫を持ち越さない。 抑制栽培では、栽培終了後株を十分枯らし てから施設外に持ち出す。厳冬期は施設を 開放して低温条件にし、タバココナジラミ の施設内での越冬を防ぐ。		
青枯病	○植付前 1 連作を避ける。 2 滞水しないよう排水対策を行う。 3 耐病性台木を用いる。 4 土壌消毒(土壌消毒の頁参照) ○生育期 発病株は早期に抜き取り、適切に処分 する。		
かいよう病	○植付前 1 資材消毒(資材消毒の頁参照) 2 連作を避ける。 ○生育期 1 発病株は早期に抜き取り、適切に処分 する。 2 芽かき、誘引は、曇雨天や露のあ るときは避ける。 3 芽かきは側枝が小さいうちに行う。 ハサミを使用する場合は、一株ごとに 消毒する。 4 薬剤散布 クプロシールド 1,000倍 マイコシールド 2,000倍 カッパーシン水和剤 1,000倍 カスミンボルドー]	発病前～発病初期―― 7－2 前－5	

病害虫名	防除時期及び防除法	使用時期-本剤の使用回数	注意事項
茎えそ細菌病	○植付前 かいよう病に準ずる。 ○生育期 1 かいよう病に準ずる。 2 薬剤散布 マスターピース水和剤 2,000倍	前――	
萎凋病 根腐萎凋病 半身萎凋病	○は種、植付前 1 抵抗性台木、耐病性品種を用いる。 2 連作を避ける。水稲と輪作を行う。 3 資材消毒（資材消毒の頁参照） 4 土壌消毒（土壌消毒の頁参照） ○生育期 発病株は早期に抜き取り、適切に処分する。		
コナジラミ類 〔・タバココナジラミ ・オンシツコナジラミ〕	○育苗期～定植時 1 侵入防止のため0.4mm目の防虫ネットをハウスの開口部に設置する。 2 薬剤処理 スタークル粒剤 1g/株 アルバリン粒剤 1g/株 育苗期：株元散布 定植時：植穴土壌混和 ベストガード粒剤 1g/株 育苗期：株元処理 定植時：植穴処理土壌混和 アベイル粒剤 2g/株 株元散布 ブリロッソ粒剤オメガ 2g/株 株元散布 ベリマークSC 25ml/400株 育苗期後半～定植当日：400株当り10～20L灌注 25ml/400株 定植直後：400株当り20～200L株元灌注 ○生育期 1 捕虫リボン、誘引捕殺粘着シート（黄色）を用いる。 2 施設内外の除草を徹底する。 3 薬剤散布 ベストガード水溶剤 2,000倍 スタークル顆粒水溶剤 3,000倍 アルバリン顆粒水溶剤 3,000倍 アニキ乳剤 2,000倍 コロマイト乳剤 1,500倍 アグリメック 1,000倍 クリアザールフロアブル 4,000倍 コルト顆粒水和剤 4,000倍 ディアナSC 2,500倍 ダブルシューターSE 1,000倍 ウララDF 2,000倍 ベネビアOD 2,000倍 グレーシア乳剤 2,000倍 ファインセーブフロアブル 2,000倍 粘着くん液剤 100倍 フーモン 1,000倍 サンクリスタル乳剤 300倍 サフオイル乳剤 300倍 4 天敵による防除 オンシツツヤコバチ剤 1カド/25～30株 エンストリップ	育苗期――1 定植時――1 育苗期――1 定植時――1 育苗期後半～定植当日――1 育苗期後半～定植時――1 育苗期後半～定植当日――1 定植直後――1 前――3 前――2 前――3 前――2 前――3 前――2 前――3 前――2 前――3 前――2 前――3 前――2 前――3 前――1 前――1 前――1 前――1 発生初期――	1 ベストガード粒剤の育苗期または定植時の処理は、どちらか1回。 2 ベリマークSCの育苗期後半～定植当日または定植直後の処理は、どちらか1回。 3 タバココナジラミ（バイオタイプQ）は薬剤抵抗性が発達しやすいので同一系統の薬剤の連用は避ける。 4 エンストリップ、ツヤコバチEF30は野菜類（施設栽培）登録。 5 ベネビアOD、アベイル粒剤、ブリロッソ粒剤オメガ、ベリマークSCの総使用回数は4剤合わせて4回以内。 6 ファインセーブフロアブルはタバココナジラミ類（シルバーリーフコナジラミを含む）適用。 7 コナジラミ類防除薬剤の系統分類の頁参照。

病害虫名	防除時期及び防除法	使用時期-本剤の使用回数	注意事項
アブラムシ類 ・ワタアブラムシ ・モモアブラムシ ・シヤガイモヒゲナガアブラムシ	○育苗期～定植時 アドマイヤー1粒剤 1g/株 植穴土壌混和 モスピラン粒剤 1g/株 植穴土壌混和 ベストガード粒剤 1g/株 育苗期:株元処理 定植時:植穴処理土壌混和 スタークル粒剤 1g/株 アルバリン粒剤 1g/株 植穴土壌混和 ○生育期(発生初期) アドマイヤーフロアブル 4,000倍 モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍 ベストガード水溶剤 2,000倍 ダントツ水溶剤 4,000倍 チェス顆粒水和剤 5,000倍 ウララDF 4,000倍 トランスフォームフロアブル 2,000倍	定植時-1 定植時-1 育苗期-1 定植時-1 定植時-1 前-2 前-3 前-3 前-3 前-3 前-3 前-2	1 ベストガード粒剤の育苗期または定植時の処理は、どちらか1回。 2 アブラムシ類防除薬剤の系統分類の頁参照。
ハモグリバエ類 ・マメハモグリバエ ・トマトハモグリバエ ・ナスハモグリバエ	○育苗期～定植時 スタークル粒剤 1g/株 育苗期:株元散布 アルバリン粒剤 1g/株 定植時:植穴土壌混和 アクタラ粒剤5 1g/株 植穴処理 ○発生初期 ダントツ水溶剤 2,000倍 コロマイト乳剤 1,500倍 スピノエース顆粒水和剤 5,000倍	育苗期-1 定植時-1 定植時-1 前-3 前-2 前-2	
アザミウマ類 ・ヒラスハナアザミウマ ・ミカンキロアザミウマ	○発生初期 スピノエース顆粒水和剤 5,000倍 ディアナSC 5,000倍 ベストガード水溶剤 2,000倍 モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍 アグリメック 1,000倍 ファインセーブフロアブル 2,000倍	前-2 前-2 前-3 前-3 前-3 前-3	
ハダニ類 ・ナミハダニ ・カンザワハダニ	○発生初期 マイトコーネフロアブル 1,000倍 コテツフロアブル 2,000倍 サフオイル乳剤 500倍	前-1 前-3 前-	1 コテツフロアブルはナミハダニ適用。 2 ハダニ類防除薬剤の系統分類の頁参照。
トマトサビダニ	○発生初期 アファーム乳剤 2,000倍 コロマイト乳剤 1,500倍 コテツフロアブル 2,000倍 マイトコーネフロアブル 1,000倍 クリアザールフロアブル 2,000倍 マッチ乳剤 2,000倍	前-5 前-2 前-3 前-1 前-2 前-4	

病害虫名	防除時期及び防除法	使用時期-本剤の使用回数	注意事項
オオタバコガ	○発生初期 アファーム乳剤 2,000倍 スピノエース顆粒水和剤 5,000倍 ディアナSC 5,000倍 フェニックス顆粒水和剤 4,000倍 プレバソンフロアブル5 2,000倍 ヨーバルフロアブル 5,000倍 トルネードエースDF 2,000倍 プレオフロアブル 1,000倍 グレーシア乳剤 2,000倍 マッチ乳剤 3,000倍 カスケード乳剤 4,000倍 マトリックフロアブル 2,000倍 エスマルクDF 1,000倍 デルフィン顆粒水和剤 1,000倍 ゼンターリ顆粒水和剤 1,000倍	前-5 前-2 前-2 前-2 前-3 前-3 前-2 前-2 前-2 前-4 前-4 前-3 発生初期(収穫前日)―― 発生初期(収穫前日)―― 発生初期(収穫前日)――	
ハスモンヨトウ	○発生初期 フェニックス顆粒水和剤 4,000倍 プレオフロアブル 1,000倍 トルネードエースDF 2,000倍 グレーシア乳剤 2,000倍 マッチ乳剤 3,000倍 ゼンターリ顆粒水和剤 1,000倍 デルフィン顆粒水和剤 1,000倍	前-2 前-2 前-2 前-2 前-4 発生初期(収穫前日)―― 発生初期(収穫前日)――	
トマトキバガ	○発生初期 アファーム乳剤 2,000倍 ディアナSC 5,000倍 プレバソンフロアブル5 2,000倍 プレオフロアブル 1,000倍 グレーシア乳剤 2,000倍 エスマルクDF 1,000倍 ゼンターリ顆粒水和剤 1,000倍	前-5 前-2 前-3 前-2 前-2 発生初期(収穫前日)―― 発生初期(収穫前日)――	
ネコブ センチュウ	○は種または定植前 1 抵抗性台木を用いる。 2 連作を避ける。 3 土壌消毒(土壌消毒の頁参照) 4 薬剤処理 ネマキック粒剤 15kg/10a 全面土壌混和 ネマトリンエース粒剤 15kg/10a 全面土壌混和 ○生育期 ガードホープ液剤 4,000倍 2L/m ² 土壌灌注	定植前-1 定植前-1 前-1	ネマキック粒剤はマルハナバチに対して影響があるので、マルハナバチの巣箱及びその周辺にはかからないようにすること。また、使用後にマルハナバチを放飼する場合は、10日以上の間隔をあけること。

※マルハナバチ及び天敵に対する農薬の影響については、ミツバチ・マルハナバチに対する農薬の影響の頁、天敵等への農薬の影響の目安の頁参照

ミニトマト（直径3cm以下のもの）病害防除農薬一覧

農薬名	RACコード	有効成分名	本剤の使用回数	当該成分を含む農薬の総使用回数	適用病害名							
					苗立枯病	疫病	葉かび病	すすかび病	灰色かび病	うどんこ病	輪紋病	斑点病
ゲッター水和剤	10	ジエトフェンカルブ	3	3			○		○			
	1	チオファネートメチル		6※1								
バシタック水和剤75	7	メプロニル	1	2※2	○※a							
カンタスドライフロアブル	7	ボスカリド	3	3			○		○			
アフエットフロアブル	7	ペンチオピラド	3	3			○	○	○	○		○
ホライズンドライフロアブル	27	シモキサニル	3	3		○	○					
	11	ファモキサドン		3								
ファンタジスタ顆粒水和剤	11	ピリベンカルブ	3	3			○	○	○			○
ランマンフロアブル	21	シアゾファミド	4	4		○						
ショウチノスケフロアブル	U13	フルチアニル	2	2					○	○		
	9	メパニピリム		4								
トリフミン乳剤	3	トリフルミゾール	5	5			○	○		○		
パンチョTF顆粒水和剤	U6	シフルフェナミド	2	2						○		
	3	トリフルミゾール		5								
ラリー乳剤	3	ミクロブタニル	3	3			○	○				
ハーモメイト水溶剤	NC	炭酸水素ナトリウム	—	—					○※b	○※b		
ドイツボルドーA	M1	塩基性塩化銅	—	—		○	○					○
Zボルドー	M1	塩基性硫酸銅	—	—		○		○			○	
クプロシールド	M1	塩基性硫酸銅	—	—		○	○	○				
フォリオゴールド	4	メタラキシルM	2	4※3		○	○					
	M5	TPN		2								
ダコニール1000	M5	TPN	2	2		○	○	○	○	○	○	○
ベルコートフロアブル	M7	イミノクタジナルベシル酸塩	2	2			○	○	○	○		○
ボトキラー水和剤	BM2	パチルス ズブチリス	—	—					○※b	○※b		
インプレッションクリア	BM2	パチルス アミロリクエファシエンス	—	—			○	○	○※b	○※b		
サンクリスタル乳剤	—	脂肪酸グリセリド	—	—						○		

※1 種子処理は1回以内、は種後は5回以内 ※2 種子処理は1回以内、土壌灌注は1回以内

※3 種子処理は1回以内、は種後は3回以内

※a リゾクトニア菌適用 ※b 野菜類登録

ミニトマト(直径3cm以下のもの)害虫防除農薬一覧①

農薬名	RACコード	有効成分名	本剤の使用回数	当該成分を含む農薬の総使用回数	適用害虫名									
					コナジラミ類	アブラムシ類	ハモグリバエ類	アザミウマ類	オオタバコガ	ハスモンヨトウ	ハダニ類	トマトサビダニ	ネコブセンチュウ	トマトキバガ
ネマキック粒剤	1B	イミシアホス	1	1									○	
ネマトリンエース粒剤	1B	ホスチアゼート	1	2※1									○	
アドマイヤー1粒剤	4A	イミダクロプリド	1(育苗期後半)	3※2	○									
			1(定植時)		○	○								
アドマイヤーフロアブル	4A	イミダクロプリド	2	3※2	○	○								
モスピラン粒剤	4A	アセタミプリド	1(定植時)	4※3	○	○	○※a							
			1(定植前日～当日)		○									
			3			○								
モスピラン顆粒水溶剤	4A	アセタミプリド	3	4※3	○	○		○						
ベストガード粒剤	4A	ニテンピラム	1(は種時又は鉢上げ時)	4※4	○	○								
			1(育苗期)		○	○								
			1(育苗期後半)		○	○	○							
			1(定植時)		○	○	○							
ベストガード水溶剤	4A	ニテンピラム	3	4※4	○	○		○						
スタークル粒剤 アルバリン粒剤	4A	ジノテフラン	1(は種前)	5※5	○									
			1(育苗期)		○		○							
			1(定植時)		○	○	○							
			2		○	○								
スタークル顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤	4A	ジノテフラン	1(鉢上時又は定植時)	5※5	○									
			2		○									
ダントツ水溶剤	4A	クロチアニジン	3	4※6	○	○	○							
アクタラ粒剤5	4A	チアメトキサム	1(育苗期後半)	3※7	○									
			1(定植時)		○		○							
アベイル粒剤	4A	アセタミプリド	1	4※3	○	○	○							
	28	シアントラニプロール		4※8										
トランスフォームフロアブル	4C	スルホキサフロル	2	2	○	○						○		
スピノエース顆粒水和剤	5	スピノサド	2	2			○	○	○					
ダブルシューターSE	—	脂肪酸グリセリド	2	—	○		○	○	○		○			
	5	スピノサド		2										
ディアナSC	5	スピネトラム	2	2	○		○	○	○	○				○

※1 定植前の土壌混和は1回以内、土壌灌注は1回以内

※2 育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は2回以内

※3 粒剤の定植時までの処理は1回以内、散布、くん煙、定植後の株元散布は合計3回以内

※4 定植時までの処理は1回以内、定植後は3回以内 ※5 培土混和及び灌注は合計1回以内、育苗期の株元散布は1回以内、定植時の土壌混和は1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計2回以内

※6 育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計3回以内

※7 粒剤の処理は1回以内、散布は2回以内 ※8 定植時までの処理及び定植直後の株元灌注は合計1回以内、定植後の散布は3

※a トマトハモグリバエ適用

ミニトマト(直径3cm以下のもの)害虫防除農薬一覧②

農薬名	RACコード	有効成分名	本剤の使用回数	当該成分を含む農薬の総使用回数	適用害虫名									
					コナジラミ類	アブラムシ類	ハモグリバエ類	アザミウマ類	オオタバコガ	ハスモンヨトウ	ハダニ類	トマトサビダニ	ネコブセンチュウ	トマトキバガ
アフーム乳剤	6	エマメクチン安息香酸塩	5	5	○		○		○			○		○
コロマイト乳剤	6	ミルベメクチン	2	2	○		○					○		
チェス顆粒水和剤	9B	ピメトロジン	3	4※9	○	○								
コルト顆粒水和剤	9B	ピリフルキナゾン	3	3	○	○								
デルフィン顆粒水和剤	11A	B T (生菌)	—	—					○※b	○※b				
エスマルクDF	11A	B T (生菌)	—	—					○※b					○
ゼンターリ顆粒水和剤	11A	B T (生菌)	—	—					○※g	○※g				○
コテツフロアブル	13	クロルフェナピル	3	3				○※c	○		○※d	○		
マッチ乳剤	15	ルフェヌロン	2	2	○			○	○	○		○		
カスケード乳剤	15	フルフェノクスロン	2	2	○		○※e	○※c	○	○		○		
マイトコーネフロアブル	20D	ビフェナゼート	1	1							○	○		
クリアザールフロアブル	23	スピロメシフェン	2	2	○							○		
フェニックス顆粒水和剤	28	フルベンジアミド	2	2					○	○				
プレバソンフロアブル5	28	クロラントラニリプロール	1(育苗期後半～定植当日)	4※10	○		○							○
			3				○		○					○
ベネビアOD	28	シアントラニリプロール	3	4※8	○	○	○	○	○					
ベリマークSC	28	シアントラニリプロール	1(育苗期後半～定植当日)	4※8	○	○	○	○						
			1(定植直後)	4※8	○									
ヨーバルフロアブル	28	テトラニリプロール	1(育苗期後半～定植当日)	4※10	○	○	○							
			3		○	○	○	○	○	○				
ウララDF	29	フロニカミド	3	3	○	○		○※c						
グレーシア乳剤	30	フルキサメタミド	2	2	○		○	○	○	○		○		○
ファインセーブフロアブル	34	フロメトキン	3	3	○※f			○				○		
プレオフロアブル	UN	ピリダリル	2	2			○		○	○				○
サフオイル乳剤	—	調合油	—	—	○	○					○	○		

※8 定植時までの処理及び定植直後の株元灌注は合計1回以内、定植後の散布は3回以内

※9 育苗期株元散布及び定植時植穴処理は合計1回以内、散布は3回以内

※10 灌注は1回以内、散布は3回以内

※b 野菜類登録

※c ミカンキイロアザミウマ適用

※d ナミハダニ適用

※e トマトハモグリバエ、マメハモグリバエ適用

※f タバココナジラミ類(シルバーリーフコナジラミを含む)適用 ※g 野菜類(キャベツ、はくさいを除く)登録

ミニトマト(直径3cm以下)

病害虫名	防除時期及び防除法	使用時期-本剤の使用回数	注意事項
苗立枯病	○は種前、植付前 1 排水対策を行い、多湿にならないようにする。 2 土壌消毒(土壌消毒の頁参照) ○は種時～生育初期 バシタック水和剤75 1,500倍 3L/㎡土壌灌注	は種時～子葉展開時 - 1	バシタック水和剤75は リゾクトニア菌適用。
疫病	○生育期 1 予防散布に重点をおき、病葉は早期に 摘み取る。 2 施設栽培では、施設内の換気を図り、 多湿にならないようにする。 3 薬剤散布 Zボルドー 600倍 クプロシールド 2,000倍 ドイツボルドーA 500倍 ダコニール1000 1,000倍 ホライズンドライフフロアブル 2,500倍 ランマンフロアブル 2,000倍 フェスティバル水和剤 2,000倍	―― 発病前～発病初期―― ―― 前-2 前-3 前-4 前-3	
葉かび病	○は種前 1 抵抗性品種を用いる。 2 資材消毒(資材消毒の頁参照) ○生育期 1 施設栽培では、施設内の換気を図り、 多湿にならないようにする。 2 薬剤散布 ダコニール1000 1,000倍 フォリオゴールド 800倍 トリフミン乳剤 2,000倍 ラリー乳剤 5,000倍 ファンタジスタ顆粒水和剤 3,000倍 ホライズンドライフフロアブル 2,500倍 ベルコートフロアブル 4,000倍 インプレッションクリア 1,000倍	前-2 前-2 前-5 前-3 前-3 前-3 前-2 発病前～発病初期――	ダコニール1000とフォ リオゴールドの総使用回 数は合わせて2回以内。
すすかび病	○生育期 ダコニール1000 1,000倍 ベルコートフロアブル 4,000倍 トリフミン乳剤 2,000倍	前-2 前-2 前-5	
輪紋病	○植付前 資材消毒(資材消毒の頁参照) ○生育期 1 株元の病葉は早期にかき取り、持ち出し て適切に処分する。 2 薬剤散布 Zボルドー 600倍 ダコニール1000 1,000倍	―― 前-2	

ミニトマト(直径3cm以下)

病害虫名	防除時期及び防除法	使用時期-本剤の使用回数	注意事項
灰色かび病	○生育期 1 耕種的防除に重点をおき、施設栽培では低温、多湿にならないよう換気、灌水に注意する。 2 予防散布に努め、発病初期の花弁、病果は早期に除去し、ハウス、トンネル外に出す。 3 薬剤散布 ゲッター水和剤 1,500倍 ベルクートフロアブル 4,000倍 カンタスドライフロアブル 1,500倍 アフェットフロアブル 2,000倍 ハーモメイト水溶剤 800倍 ボトキラー水和剤 1,000倍	前-3 前-2 前-3 前-3 前-1 発病前～発病初期-	同一系統薬剤の連用を避ける(野菜の灰色かび病、うどんこ病防除薬剤の系統分類の頁参照)。
うどんこ病	○生育期 トリフミン乳剤 2,000倍 パンチョTF顆粒水和剤 2,000倍 ショウチノスケフロアブル 2,000倍 ハーモメイト水溶剤 1,000倍 サンクリスタル乳剤 600倍 ボトキラー水和剤 1,000倍 インプレッションクリア 2,000倍	前-5 前-2 前-2 前-1 前-1 発病前～発病初期- 発病前～発病初期-	1 同一系統薬剤の連用を避ける(野菜の灰色かび病、うどんこ病防除薬剤の系統分類の頁参照)。 2 トリフミン乳剤とパンチョTF顆粒水和剤の総使用回数は合わせて5回以内。
斑点病 青枯病 根腐萎凋病 モザイク病 ・TOMV ・CMV	トマトに準ずる。		
コナジラミ類 ・タバココナジラミ ・オシツコナジラミ	○育苗期～定植時 1 侵入防止のため0.4mm目の防虫ネットをハウスの開口部に設置する。 2 薬剤処理 スタークル粒剤 1g/株 アルバリン粒剤 1g/株 育苗期:株元散布 定植時:植穴土壌混和 ベストガード粒剤 1g/株 育苗期:株元処理 定植時:植穴処理土壌混和 アベイル粒剤 2g/株 株元散布 ベリマークSC 25ml/400株 400株当り10～20L灌注 ○生育期 1 捕虫リボン、誘引捕殺粘着シート(黄色)を用いる。 2 施設内外の除草を徹底する。 3 薬剤散布 ベストガード水溶剤 2,000倍 スタークル顆粒水溶剤 3,000倍 アルバリン顆粒水溶剤 3,000倍 コロマイト乳剤 1,500倍 コルト顆粒水和剤 4,000倍 ディアナSC 2,500倍 ダブルシューターSE 1,000倍 ウララDF 2,000倍 ベネビアOD 2,000倍 グレーシア乳剤 2,000倍	育苗期-1 定植時-1 育苗期-1 定植時-1 育苗期後半～定植当日-1 育苗期後半～定植当日-1 前-3 前-2 前-2 前-3 前-2 前-2 前-3 前-3 前-2	1 ベストガード粒剤の育苗期または定植時の処理は、どちらか1回。 2 タバココナジラミ(バイオタイプQ)は薬剤抵抗性が発達しやすいので同一系統の薬剤の連用は避ける。 3 ベネビアOD、アベイル粒剤、ベリマークSCの総使用回数は、3剤合わせて4回以内。 4 コナジラミ類防除薬剤の系統分類の頁参照。

ミニトマト(直径3cm以下)

病害虫名	防除時期及び防除法	使用時期-本剤の使用回数	注意事項
アブラムシ類 (・ワタアブラムシ ・モモアブラムシ ・シヤガイモビゲ ナガアブラムシ)	トマトに準ずる。		
ハモグリバエ類 (・マメハモグリバエ ・トマトハモグリバエ ・ナスハモグリバエ)	トマトに準ずる。		
アザミウマ類 (・ヒラスハアザミウマ ・ミカンキロアザミウマ)	○発生初期 スピノエース顆粒水和剤 5,000倍 ディアナSC 5,000倍 ベストガード水溶剤 2,000倍 モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍 ファインセーフフロアブル 2,000倍	前-2 前-2 前-3 前-3 前-3	
ハダニ類 (・ナミハダニ ・カンザワハダニ)	トマトに準ずる。		
トマトサビダニ	トマトに準ずる。		
オオタバコガ	○発生初期 アフーム乳剤 2,000倍 スピノエース顆粒水和剤 5,000倍 ディアナSC 5,000倍 フェニックス顆粒水和剤 4,000倍 プレバソンフロアブル5 2,000倍 プレオフロアブル 1,000倍 マッチ乳剤 3,000倍 カスケード乳剤 4,000倍 エスマルクDF 1,000倍 デルフィン顆粒水和剤 1,000倍	前-5 前-2 前-2 前-2 前-3 前-2 前-2 前-2 発生初期(収穫前日)―― 発生初期(収穫前日)――	
ハスモンヨトウ	○発生初期 フェニックス顆粒水和剤 4,000倍 ヨーバルフロアブル 5,000倍 プレオフロアブル 1,000倍 マッチ乳剤 3,000倍 ゼンターリ顆粒水和剤 1,000倍 デルフィン顆粒水和剤 1,000倍	前-2 前-3 前-2 前-2 発生初期(収穫前日)―― 発生初期(収穫前日)――	
トマトキバガ	トマトに準ずる。		
ネコブ センチュウ	トマトに準ずる。		

なす病害防除農薬一覧①

農薬名	RACコード	有効成分名	本剤の使用回数	当該成分を含む農薬の総使用回数	適用病害名							
					苗立枯病	うどんこ病	灰色かび病	すすかび病	褐色円星病	半身萎凋病	褐色腐敗病	菌核病
トップジンM水和剤	1	チオファネートメチル	5	6※1			○					○
ベンレート水和剤	1	ベノミル	3	4※2			○			○		○
ゲッター水和剤	1	チオファネートメチル	5	6※1			○					○
	10	ジエトフェンカルブ		5								
ニマイバー水和剤	1	ベノミル	3	4※2		○	○	○				○
	10	ジエトフェンカルブ		5								
プロパティフロアブル	50	ピリオフェノン	3	3		○						
カンタスドライフロアブル	7	ボスカリド	3	3			○	○				○
アフェットフロアブル	7	ペンチオピラド	3	3		○	○	○	○			○
ベジセイバー	7	ペンチオピラド	3	3		○	○	○	○			○
	M5	T P N		4								
パレード20フロアブル	7	ピラジフルミド	3	3		○	○	○				○
シグナムWDG	11	ピラクロストロビン	3	3		○	○	○				○
	7	ボスカリド		3								
アミスター20フロアブル	11	アゾキシストロビン	4	4		○		○				
ストロビーフロアブル	11	クレソキシムメチル	3	3		○		○				
ホライズンドライフロアブル	27	シモキサニル	3	3							○	
	11	ファモキサドン		3								
ファンタジスタ顆粒水和剤	11	ピリベンカルブ	3	3		○	○	○	○			○
ランマンフロアブル	21	シアゾファミド	4	4							○	
ライメイフロアブル	21	アミスルプロム	3	3							○	
ドーシャスフロアブル	21	シアゾファミド	4	4							○	
	M5	T P N		4								

※1 種子処理は1回以内、は種後は5回以内 ※2 種子粉衣は1回以内、は種後は3回以内

なす病害防除農薬一覧②

農薬名	RACコード	有効成分名	本剤の使用回数	当該成分を含む農薬の総使用回数	適用病害名							
					苗立枯病	うどんこ病	灰色かび病	すすかび病	褐色円星病	半身萎凋病	褐色腐敗病	菌核病
フルピカフロアブル	9	メパニピリム	4	4		○	○					
ショウチノスケフロアブル	U13	フルチアニル	2	2		○	○					
	9	メパニピリム		4								
リゾレックス水和剤	14	トルクロホスメチル	1	1	○ ※a							
トリフミン乳剤	3	トリフルミゾール	5	5		○		○				
パンチョTF顆粒水和剤	U6	シフルフェナミド	2	2		○						
	3	トリフルミゾール		5								
プロポーズ顆粒水和剤	40	ベンチアバリカルブ イソプロピル	4	4				○			○	
	M5	TPN		4								
レーバスフロアブル	40	マンジプロパミド	3	3							○	
ジーファイン水和剤	M1	無水硫酸銅	—	—		○						
	NC	炭酸水素ナトリウム		—								
オーソサイド水和剤80	M4	キャプタン	1(は種前)	5(種子粉衣 1回以内)	○							
			5(は種後 2～3葉期)		○							
フォリオゴールド	M5	TPN	3	4		○		○			○	
	4	メタラキシルM		4※3								
ダコニール1000	M5	TPN	4	4		○	○	○				
ベルクート水和剤	M7	イミノクタジン アルベシル酸塩	3	3		○	○	○				
ベルクートフロアブル	M7	イミノクタジン アルベシル酸塩	3	3		○	○	○				
パルミノ	M10	キノキサリン系	3	3		○		○				

※3 種子処理は1回以内、は種後は3回以内 ※a リゾクトニア菌適用

なす害虫防除農薬一覧①

農 薬 名	R A C コード	有 効 成分名	本剤の 使 用 回 数	当該成分を 含む農薬の 総使用回数	適 用 害 虫 名													
					ア ブ ラ ム シ 類	ハ ダ ニ 類	チャ ノ ホ コ リ ダ ニ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	オ オ タ バ コ ガ	ア ズ キ ノ メ イ ガ	コ ナ ジ ラ ミ 類	カ メ ム シ 類	カ ス ミ カ メ ム シ 類	ア ザ ミ ウ マ 類	ミ ナ ミ キ イ ロ ア ザ ミ ウ マ	ミ カ ン キ イ ロ ア ザ ミ ウ マ	ハ モ グ リ バ エ 類	ネ コ ブ セ ン チュ ウ
ネマトリンエース粒剤	1B	ホスチアゼート	1	1		○					○※a				○			○
アーデント水和剤	3A	アクリナトリン	4	4	○	○		○								○		
アドマイヤー1粒剤	4A	イミダクロプリド	1 (育苗期後半)	3※1	○													
		1(定植時)			○								○					
アドマイヤーフロアブル	4A	イミダクロプリド	2	3※1	○								○					
モスピラン粒剤	4A	アセタミプリド	1(定植前日 ～当日)	4※2	○						○							
		1(定植時)			○									○				
モスピラン顆粒水溶剤	4A	アセタミプリド	3	4※2	○						○		○					
ベストガード粒剤	4A	ニテンピラム	1(は種時又は 鉢上げ時)	4※3	○													
			1(育苗期)		○					○								
			1(育苗期後半)		○					○								
			1(定植時)		○					○			○					
			3		○													
ベストガード水溶剤	4A	ニテンピラム	3	4※3	○						○	○			○			
アクタラ粒剤5	4A	チアメトキサム	1(育苗期後半)	4※4	○													
			1(定植時)		○						○			○	○	○※b		
アクタラ顆粒水溶剤	4A	チアメトキサム	3	4※4	○						○				○		○※b	
バリアード顆粒水和剤	4A	チアクロプリド	3	3	○						○							
スタークル粒剤 アルバリン粒剤	4A	ジノテフラン	1(育苗期)	3※5	○						○						○	
			1(定植時)		○					○		○			○			
			2		○					○								
スタークル顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤	4A	ジノテフラン	2	3※5	○						○	○		○				
ダントツ粒剤	4A	クロチアニジン	1(育苗期後半)	4※6	○						○							
			1(定植時)		○					○						○※b		
			3		○													
ダントツ水溶剤	4A	クロチアニジン	3	4※6	○						○	○			○		○	
トランスフォームフロアブル	4C	スルホキサフロル	2	2	○						○							
スピノエース顆粒水和剤	5	スピノサド	2	2					○					○				
ダブルシューターSE	5	スピノサド	2	2		○			○		○			○			○	
	—	脂肪酸グリセリド		—					○		○							
ディアナSC	5	スピネトラム	2	2				○	○		○			○			○	
アクセルフロアブル	22B	メタフルミゾン	3	3				○	○									

※1 育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布及び常温煙霧は合計2回以内

※2 粒剤の定植時までの処理は1回以内、散布、くん煙及び定植後の株元散布は合計3回以内

※3 定植時までの処理は1回以内、定植後は3回以内

※4 定植時までの処理は1回以内、散布は3回以内

※5 育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計2回以内

※6 育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計3回以内

※a オンシツコナジラミ適用 ※b マメハモグリバエ適用

なす害虫防除農薬一覧②

農 薬 名	R A C コード	有 効 成分名	本剤の 使 用 回 数	当該成分を 含む農薬の 総使用回数	適 用 害 虫 名												
					ア ブ ラ ム シ 類	ハ ダ ニ 類	チ ヤ ノ ホ コ リ ダ ニ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	オ オ タ バ コ ガ	ア ズ キ ノ メ イ ガ	コ ナ ジ ラ ミ 類	カ メ ム シ 類	カ ス ミ カ メ ム シ 類	ア ザ ミ ウ マ 類	ミ ナ ミ キ イ ロ ア ザ ミ ウ マ	ミ カ ン キ イ ロ ア ザ ミ ウ マ	ハ モ グ リ バ エ 類
アニキ乳剤	6	レピメクチン	3	3			○	○	○		○						○
アフーム乳剤	6	エマメクチン安息香酸塩	2	2		○	○	○	○		○			○			○
アグリメック	6	アバメクチン	3	3		○					○			○			
コロマイト乳剤	6	ミルベメクチン	2	2		○	○				○						○
コルト顆粒水和剤	9B	ピリフルキナゾン	3	3	○						○		○				
チェス顆粒水和剤	9B	ピメトロジン	3	4※7	○						○						
デルフィン顆粒水和剤	11A	B T（生菌）	－	－				○※c	○※c								
エスマルクＤＦ	11A	B T（生菌）	－	－					○※c								
ゼンターリ顆粒水和剤	11A	B T（生菌）	－	－				○※e	○※e								
コテツフロアブル	13	クロルフェナピル	4	4		○	○	○	○						○	○	
マッチ乳剤	15	ルフェヌロン	4	4					○								
カネマイトフロアブル	20B	アセキノシル	1	1		○	○										
マイトコーネフロアブル	20D	ビフェナゼート	1	1		○											
トルネードエースＤＦ	22A	インドキサカルブ	2	2				○	○								
モベントフロアブル	23	スピロテトラマト	1(育苗期後半 ～定植当日)	3※8	○	○	○				○			○			
			3		○	○	○				○			○			
スターマイトフロアブル	25A	シエノピラフェン	1	1		○	○										
ダブルフェースフロアブル	25B	ピフルブミド	1	1													
	21A	フェンピロキシメート		3		○	○										
プレバソンフロアブル	28	クロラントラニプロール	1(育苗期後半 ～定植当日)	3※9				○									○
			2					○	○							○	
フェニックス顆粒水和剤	28	フルベンジアミド	3	3				○	○	○							
ヨーバルフロアブル	28	テトラニプロール	1(育苗期後半 ～定植当日)	4※10	○			○	○		○						○
			3		○			○	○		○					○	
ウララＤＦ	29	フロニカミド	3	3	○						○					○	
グレーシア乳剤	30	フルキサメタミド	2	2		○	○	○	○		○			○			○
プレオフロアブル	UN	ピリダリル	4	4				○	○					○			○
ファインセーブフロアブル	UN	フロメトキン	3	3							○※d			○			
ダニオーテフロアブル	UN	アシノナピル	2	2		○											
パルミノ	UN	キノキサリン系	3	3			○				○						
粘着くん液剤	－	ヒドロキシプロピルデンブ	－	－	○※c	○※c					○※c						
アカリタッチ乳剤	－	プロピレングリコール モノ脂肪酸エステル	－	－		○※c											
サンクリスタル乳剤	－	脂肪酸グリセリド	－	－	○	○	○				○						

※7 育苗期株元散布は1回以内、散布は3回以内 ※8 灌注は1回以内

※9 定植時までの処理は1回以内、散布は2回以内 ※10 灌注は1回以内、散布は3回以内

※c 野菜類登録 ※d タバココナジラミ類(シルバーリーフコナジラミを含む)適用

※e 野菜類(キャベツ、はくさいを除く)登録

病害虫名	防除時期及び防除法	使用時期-本剤の使用回数	注意事項
苗立枯病	○は種前 土壌消毒（土壌消毒の頁参照） ○は種時～生育初期 1 多湿にならないよう灌水に注意する。 2 薬剤処理 オーソサイド水和剤80 800倍 2L/㎡灌注 リゾレックス水和剤 500倍 3L/㎡土壌灌注	は種後から2～3葉期 －5 は種時－1	リゾレックス水和剤は リゾクトニア菌適用。
うどんこ病	○生育期 パルミノ 2,000倍 トリフミン乳剤 2,000倍 パンチョTF顆粒水和剤 2,000倍 ダコニール1000 1,000倍 ベルコートフロアブル 2,000倍 プロパティフロアブル 3,000倍 ショウチノスケフロアブル 2,000倍 フルピカフロアブル 3,000倍 ニマイパー水和剤 1,000倍 ジーファイン水和剤 2,000倍	前－3 前－5 前－2 前－4 前－3 前－3 前－2 前－4 前－3 前－	1 同一系統薬剤の連用 を避ける（野菜の灰色 かび病、うどんこ病防 除薬剤の系統分類の頁 参照）。 2 トリフミン乳剤とパ ンチョTF顆粒水和剤 の総使用回数は合わせ て5回以内。 3 フルピカフロアブ ル、ショウチノスケ フロアブルの総使用回 数は合わせて4回以内。
灰色かび病	○生育期 ゲッター水和剤 1,500倍 フルピカフロアブル 3,000倍 アフエットフロアブル 2,000倍 カンタスドライフロアブル 1,500倍 パレード20フロアブル 4,000倍	前－5 前－4 前－3 前－3 前－3	同一系統薬剤の連用を 避ける（野菜の灰色かび 病、うどんこ病防除薬剤 の系統分類の頁参照）。
すすかび病	○生育期 トリフミン乳剤 2,000倍 アミスター20フロアブル 2,000倍 ストロビーフロアブル 3,000倍 ベルコート水和剤 3,000倍 ベルコートフロアブル 2,000倍 ダコニール1000 1,000倍 カンタスドライフロアブル 1,500倍	前－5 前－4 前－3 前－3 前－3 前－4 前－3	1 アミスター20フロアブ ル、ストロビーフロア ブルは浸透性展着剤と の混用を避ける。 2 ベルコート水和剤、ベ ルコートフロアブルの 総使用回数は合わせて3 回以内。
褐色円星病	○生育期 アフエットフロアブル 2,000倍 ベジセイパー 1,000倍 ファンタジスタ顆粒水和剤 2,000倍	前－3 前－3 前－3	アフエットフロアブル とベジセイパーの総使用 回数は合わせて3回以内。
青枯病	○植付前 1 耐病性台木を用いる。 2 連作を避ける。 3 排水対策を行う。 4 土壌消毒（土壌消毒の頁参照） 5 資材消毒（資材消毒の頁参照） ○生育期 発病株は早期に抜き取り適切に処分する。		
半身萎凋病	○植付前 1 耐病性台木を用いる。 2 連作を避ける。 3 土壌消毒（土壌消毒の頁参照） 4 資材消毒（資材消毒の頁参照） ○生育期 1 発病株は伝染源となるため、早期に抜 き取り、適切に処分する。 2 薬剤処理 ベンレート水和剤 1,000倍 400～600ml/株：土壌灌注	定植後～収穫14日前 －3	

病害虫名	防除時期及び防除法	使用時期-本剤の使用回数	注意事項
疫病	○植付前 土壌消毒（土壌消毒の頁参照） ○生育期 1 ほ場が多湿にならないように注意する。 2 り病株、茎葉は早めに除去し、ほ場外に出す。		
褐色腐敗病	○植付前 1 排水対策を行う。 2 ナス科作物の連作は避ける。 ○生育期 ホライズンドライフロアブル 2,500倍 ランマンフロアブル 2,000倍 フォリオゴールド 1,000倍 プロポーズ顆粒水和剤 1,000倍 ライメイフロアブル 4,000倍 レーバスフロアブル 2,000倍 ドーシャスフロアブル 1,000倍	前-3 前-4 前-3 前-4 前-3 前-3 前-4	1 プロポーズ顆粒水和剤、フォリオゴールド、ドーシャスフロアブルの総使用回数は3剤合わせて4回以内。 2 ランマンフロアブルとドーシャスフロアブルの総使用回数は合わせて4回以内。
菌核病	○生育期 トップジンM水和剤 2,000倍 ベンレート水和剤 2,000倍 アフェットフロアブル 2,000倍 シグナムWDG 1,500倍	前-5 前-3 前-3 前-3	
アブラムシ類 (ワタアブラムシ・モモアブラムシ・ジャガイモシガキアブラムシ)	○植付前 反射マルチ等で忌避を図る。 ○育苗期～定植時 アドマイヤー1粒剤 1g/株 育苗期後半:株元散布 定植時:植穴または株元土壌混和 モスピラン粒剤 0.5g/株 植穴土壌混和 ベストガード粒剤 1g/株 育苗期:株元処理 定植時:植穴処理土壌混和 アクタラ粒剤5 1g/株 育苗期後半:株元散布 定植時:植穴処理 ○発生初期 モスピラン顆粒水溶剤 4,000倍 アクタラ顆粒水溶剤 3,000倍 バリアード顆粒水和剤 4,000倍 ダントツ水溶剤 4,000倍 アドマイヤーフロアブル 4,000倍 ベストガード水溶剤 2,000倍 チェス顆粒水和剤 5,000倍 コルト顆粒水和剤 4,000倍 ウララDF 4,000倍 トランスフォームフロアブル 2,000倍	育苗期後半-1 定植時-1 定植時-1 育苗期-1 定植時-1 育苗期後半-1 定植時-1 前-3 前-3 前-3 前-3 前-2 前-3 前-3 前-3 前-3 前-3 前-2	1 アドマイヤー1粒剤の育苗期後半または定植時の処理は、どちらか1回。 2 ベストガード粒剤の育苗期または定植時の処理は、どちらか1回。 3 アクタラ粒剤5の育苗期後半または定植時の処理は、どちらか1回。 4 アブラムシ類防除薬剤の系統分類の頁参照。
チャノ ホコリダニ	○発生初期 パルミノ 2,000倍 カネマイトフロアブル 1,000倍 スターマイトフロアブル 2,000倍 アフーム乳剤 2,000倍 アニキ乳剤 2,000倍 ダブルフェースフロアブル 2,000倍 グレーシア乳剤 2,000倍 サンクリスタル乳剤 600倍	前-3 前-1 前-1 前-2 前-3 前-1 前-2 前-1	新芽や新葉に寄生が多いので、新葉部に十分散布する。

病害虫名	防除時期及び防除法	使用時期-本剤の使用回数	注意事項
ハダニ類 〔・ナミハダニ ・カンザワハダニ〕	○発生初期 コロマイト乳剤 1,500倍 カネマイトフロアブル 1,500倍 マイトコーネフロアブル 1,000倍 スターマイトフロアブル 2,000倍 アフーム乳剤 2,000倍 アグリメック 1,000倍 ダブルフェースフロアブル 2,000倍 グレーシア乳剤 2,000倍 ダニオーテフロアブル 2,000倍 モベントフロアブル 2,000倍 粘着くん液剤 100倍 アカリタッチ乳剤 3,000倍	前－2 前－1 前－1 前－1 前－2 前－3 前－1 前－2 前－2 前－3 前－ 前－	薬剤抵抗性の発達を防ぐため、異なる系統の薬剤をローテーション散布する(ハダニ類防除薬剤の系統分類の頁、ハダニ類を対象とする殺ダニ剤の系統と特性の頁参照)。
コナジラミ類 〔・タバコナジラミ ・オシロイナミ〕	○育苗期後半～定植時 ベストガード粒剤 1g/株 育苗期：株元処理 定植時：植穴処理土壌混和 スタークル粒剤 1g/株 アルバリン粒剤 1g/株 植穴土壌混和 ○発生初期 スタークル顆粒水溶剤 3,000倍 アルバリン顆粒水溶剤 3,000倍 ベストガード水溶剤 2,000倍 チェス顆粒水和剤 5,000倍 コルト顆粒水和剤 4,000倍 アニキ乳剤 2,000倍 ディアナSC 2,500倍 ウララDF 2,000倍	育苗期－1 定植時－1 定植時－1 前－2 前－3 前－3 前－3 前－3 前－3 前－2 前－3	ベストガード粒剤の育苗期または定植時の処理は、どちらか1回。
ハスモンヨトウ	○発生初期 アフーム乳剤 2,000倍 アニキ乳剤 2,000倍 トルネードエースDF 2,000倍 アクセルフロアブル 2,000倍 ブレオフロアブル 1,000倍 フェニックス顆粒水和剤 4,000倍 ブレバソンフロアブル5 2,000倍 ヨーバルフロアブル 5,000倍 グレーシア乳剤 2,000倍 ゼンターリ顆粒水和剤 1,000倍 デルフィン顆粒水和剤 1,000倍	前－2 前－3 前－2 前－3 前－4 前－3 前－2 前－3 前－2 発生初期(収穫前日)－ 発生初期(収穫前日)－	老齢幼虫には、薬剤の効果が劣るので、若齢幼虫の防除を徹底する。
オオタバコガ	○発生初期 アフーム乳剤 2,000倍 アニキ乳剤 2,000倍 スピノエース顆粒水和剤 5,000倍 フェニックス顆粒水和剤 4,000倍 ブレバソンフロアブル5 2,000倍 ヨーバルフロアブル 5,000倍 ブレオフロアブル 1,000倍 トルネードエースDF 2,000倍 マッチ乳剤 2,000倍 エスマルクDF 1,000倍 デルフィン顆粒水和剤 1,000倍	前－2 前－3 前－2 前－3 前－2 前－3 前－4 前－2 前－4 発生初期(収穫前日)－ 発生初期(収穫前日)－	
アズキノメイガ (フキノメイガ)	○発生初期 1 被害葉や被害茎を切り取り、処分する。 2 ほ場周辺の除草に努める。 3 薬剤散布 フェニックス顆粒水和剤 4,000倍	前－3	

病害虫名	防除時期及び防除法	使用時期-本剤の使用回数	注意事項
カメムシ類	○発生初期 スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 アルバリン顆粒水溶剤 4,000倍 ダントツ水溶剤	前-2 前-3	
カスミ カメムシ類	○発生初期 コルト顆粒水和剤 4,000倍	前-3	
アザミウマ類 (・ミナミキイロアザミウマ ・ミカンキイロアザミウマ ・ヒラタハアザミウマ)	○育苗期、定植時 1 反射マルチ等で忌避を図る。 2 薬剤処理 アドマイヤー1粒剤 1g/株 植穴または株元土壌混和 スタークル粒剤 1g/株 アルバリン粒剤 1g/株 植穴土壌混和 ○発生初期 スピノエース顆粒水和剤 5,000倍 ディアナSC 5,000倍 アファーム乳剤 2,000倍 アグリメック 1,000倍 ファインセーブフロアブル 2,000倍 プレオフロアブル 1,000倍 スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 アルバリン顆粒水溶剤 2,000倍 モスピラン顆粒水溶剤 4,000倍 アドマイヤーフロアブル 4,000倍 ダブルシューターSE 1,000倍	定植時-1 定植時-1 前-2 前-2 前-2 前-3 前-3 前-3 前-4 前-2 前-3 前-2 前-2	スピノエース顆粒水和剤とダブルシューターSEの総使用回数は合わせて2回以内。
ミナミキイロ アザミウマ	○定植時 モスピラン粒剤 1g/株 植穴土壌混和 ベストガード粒剤 1g/株 植穴処理土壌混和 ○発生初期 コテツフロアブル 2,000倍 ベストガード水溶剤 2,000倍 アクタラ顆粒水溶剤 2,000倍 ダントツ水溶剤 4,000倍	定植時-1 定植時-1 前-4 前-3 前-3 前-3	
ミカンキイロ アザミウマ	○発生初期 アーデント水和剤 1,000倍 コテツフロアブル 2,000倍 ウララDF 2,000倍	前-4 前-4 前-3	
ハモグリバエ類 (・マメハモグリバエ ・ナメハモグリバエ)	○定植時 スタークル粒剤 1g/株 アルバリン粒剤 1g/株 ダントツ粒剤 1g/株 植穴土壌混和 植穴処理土壌混和 ○発生初期 アファーム乳剤 2,000倍 アクタラ顆粒水溶剤 2,000倍	定植時-1 定植時-1 前-2 前-3	ダントツ粒剤、アクタラ顆粒水溶剤はマメハモグリバエ適用。
ネコブ センチュウ	○定植前 1 土壌消毒（土壌消毒の頁参照） 2 薬剤処理 ネマトリンエース粒剤 15kg/10a 全面土壌混和	定植前-1	

ピーマン病害防除農薬一覧

農薬名	RACコード	有効成分名	本剤の使用回数	当該成分を含む農薬の総使用回数	適用病害名					
					苗立枯病	疫病	灰色かび病	うどんこ病	炭疽病	斑点細菌病
アフエットフロアブル	7	ペンチオピラド	3	3			○	○		
カンタスドライフロアブル	7	ボスカリド	3	3			○			
ランマンフロアブル	21	シアゾファミド	4	4		○				
銅パースン水和剤 カスミンボルドー	24	カスガマイシン	5	5				○		○
	M1	塩基性塩化銅		—						
セイビアーフロアブル20	12	フルジオキソニル	3	3			○		○	
トリフミン水和剤	3	トリフミゾール	5	5				○		
レーバスフロアブル	40	マンジプロパミド	2	s		○				
ハーモメイト水溶剤	NC	炭酸水素ナトリウム	—	—			○※a	○※a		
Zボルドー	M1	塩基性硫酸銅	—	—						○※b
オーソサイド水和剤80	M4	キャプタン	1 (は種前)	2※1	○					
			2 (は種後から2～3葉期)		○					
ダコニール1000	M5	T P N	3	3				○	○	
ボトキラー水和剤	BM2	バチルス ズブチリス	—	—			○※a	○※a		
インプレッションクリア	BM2	バチルス アミロリクエファシエンス	—	—			○※a	○※a		

※1 種子粉衣は1回以内

※a 野菜類登録 ※b 野菜類（キャベツを除く）登録

ピーマン害虫防除農薬一覧

農薬名	RACコード	有効成分名	本剤の使用回数	当該成分を含む農薬の総使用回数	適用害虫名					
					アブラムシ類	アザミウマ類	オオタバコガ	ハダニ類	カメムシ類	ネコブセンチュウ
ネマキック粒剤	1B	イミシアホス	1	2※1						○
ネマトリンエース粒剤	1B	ホスチアゼート	1	2※2						○
アディオン乳剤	3A	ペルメトリン	5	5	○				○	
アドマイヤー1粒剤	4A	イミダクロプリド	1(育苗期後半)	3※3	○					
			1(定植時)		○	○				
モスピラン粒剤	4A	アセタミプリド	1(定植前日～当日)	3※4	○					
			1(定植時)		○					
ベストガード粒剤	4A	ニテンピラム	1(育苗期)	4※5	○					
			1(定植時)		○	○※a				
ベストガード水溶剤	4A	ニテンピラム	3	4※5	○	○※a				
スタークル粒剤 アルバリン粒剤	4A	ジノテフラン	1(育苗期)	3※6	○					
			1(定植時)		○	○				
			2		○					
スタークル顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤	4A	ジノテフラン	2	3※6	○	○			○	
アドマイヤーフロアブル	4A	イミダクロプリド	2	3※3	○※b					
モスピラン顆粒水溶剤	4A	アセタミプリド	2	3※4	○	○				
ダントツ水溶剤	4A	クロチアニジン	2	3※7	○	○※a				
トランスフォームフロアブル	4C	スルホキサフロル	2	2	○					
ディアナSC	5	スピネトラム	2	2		○	○			
スピノエース顆粒水和剤	5	スピノサド	2	2		○	○			
アグリメック	6	アバメクチン	3	3		○		○		
アフーム乳剤	6	エマメクチン安息香酸塩	2	2			○			
コロマイト乳剤	6	ミルベメクチン	2	2				○		
チェス顆粒水和剤	9B	ピメトロジン	3	4※8	○					
エスマルクDF	11A	BT(生菌)	—	—			○※c			
デルフィン顆粒水和剤	11A	BT(生菌)	—	—			○※c			
コテツフロアブル	13	クロルフェナビル	2	2		○※d	○	○		
カスケード乳剤	15	フルフェノクスロン	3	3		○※a	○			
マッチ乳剤	15	ルフェヌロン	4	4			○			
カネマイトフロアブル	20B	アセキノシル	1	1				○		
マイトコーネフロアブル	20D	ビフェナゼート	1	1				○		
フェニックス顆粒水和剤	28	フルベンジアミド	2	2			○			
ウララDF	29	フロニカミド	2	2	○					
ファインセーブフロアブル	34	フロメトキン	3	3		○				
サフオイル乳剤	—	調合油	—	—	○※e			○※e		

※1 定植前の土壌混和は1回以内、生育期の土壌灌注は1回以内

※2 定植前の土壌混和は1回以内、土壌灌注は1回以内

※3 育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は2回以内

※4 粒剤の定植時までの処理は1回以内、散布、くん煙及び定植後の株元散布は合計2回以内

※5 定植時までの処理は1回以内、定植後は3回以内

※6 育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計2回以内

※7 定植時までの処理は1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計2回以内

※8 育苗期の株元散布は1回以内、散布は3回以内

※a ミナミキロアザミウマ適用 ※b ピーマン(施設栽培)登録 ※c 野菜類登録

※d ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ適用 ※e 野菜類(いちご、トマト、ミニトマトを除く)登録

病害虫名	防除時期及び防除法	使用時期-本剤の使用回数	注意事項
苗立枯病	○は種直後～生育初期 オーソサイド水和剤80 800倍 2L/㎡灌注	は種後から2～3葉期 ー2	
疫病	○生育期 1 排水対策を行い、多湿にならないようにする。 2 薬剤散布 ランマンフロアブル 2,000倍 レーバスフロアブル 2,000倍	前ー4 前ー2	
灰色かび病	○生育期 1 施設栽培では、施設内の換気を図り、多湿にならないようにする。 2 薬剤散布 カンタスドライフロアブル 1,500倍 アフエットフロアブル 2,000倍 ハーモメイト水溶剤 800倍 ボトキラー水和剤 1,000倍 インプレッションクリア 2,000倍	前ー3 前ー3 前ーー 発病前～発病初期ーー 発病前～発病初期ーー	
うどんこ病	○発病初期 ダコニール1000 1,000倍 トリフミン水和剤 5,000倍 ハーモメイト水溶剤 1,000倍 ボトキラー水和剤 1,000倍 インプレッションクリア 2,000倍	前ー3 前ー5 前ーー 発病前～発病初期ーー 発病前～発病初期ーー	
炭疽病	○生育期 ダコニール1000 1,000倍 セイビアーフロアブル20 1,000倍	前ー3 前ー3	
斑点細菌病	○生育期 Zボルドー 500倍 カッパーシン水和剤 1,000倍 カスミンボルドー]	ーーー 前ー5	
モザイク病 (・PMMoV ・CMV ・BBWV)	○は種、植付前 1 PMMoV耐病性品種を用いる。 2 苗床は防虫ネットを張り、アブラムシ類の飛来を防ぐ。 ○生育期 1 アブラムシ類の防除を徹底する。 2 発病株は早期に抜き取り、適切に処分する。		
黄化えそ病 (TSWV)	○は種前 ハウス内外の除草を徹底する。 ○生育期 アザミウマ類の防除を徹底する。		
青枯病	○植付前 1 連作を避ける。 2 滞水しないよう排水対策を行う。 3 抵抗性台木を使用する。 4 土壌消毒（土壌消毒の頁参照） ○生育期 発病株は早期に抜き取り、適切に処分する。		

病害虫名	防除時期及び防除法	使用時期-本剤の使用回数	注意事項
アブラムシ類 〔・ワタアブラムシ ・モモアブラムシ ・ジャガ イモヒゲ ナカアブラムシ〕	○育苗期～定植時 アドマイヤー1粒剤 1g/株 育苗期後半：株元散布 定植時：植穴または株元土壌混和 モスピラン粒剤 0.5g/株 定植前日～定植当日：株元散布 定植時：植穴土壌混和 ベストガード粒剤 1g/株 育苗期：株元処理 定植時：植穴処理土壌混和 スタークル粒剤 1g/株 アルバリン粒剤 1g/株 育苗期：株元散布 定植時：植穴土壌混和 ○発生初期 アドマイヤーフロアブル 4,000倍 モスピラン顆粒水溶剤 4,000倍 ベストガード水溶剤 2,000倍 ダントツ水溶剤 4,000倍 チェス顆粒水和剤 5,000倍 ウララDF 4,000倍 トランスフォームフロアブル 2,000倍	育苗期後半－1 定植時－1 定植前日～定植当日－1 定植時－1 育苗期－1 定植時－1 育苗期－1 定植時－1 前－2 前－2 前－3 前－2 前－3 前－2 前－2	1 アドマイヤー1粒剤の育苗期後半または定植時の処理はどちらか1回。 2 モスピラン粒剤の定植前日～定植当日または定植時の処理はどちらか1回。 3 ベストガード粒剤の育苗期または定植時の処理はどちらか1回。 4 スタークル粒剤及びアルバリン粒剤の育苗期または定植時の処理はどちらか1回。 5 アドマイヤーフロアブルはピーマン（施設栽培）登録。 6 アブラムシ類防除薬剤の系統分類の頁参照。
アザミウマ類 〔・ミナミキイロアザミウマ ・ミカンキイロアザミウマ〕	○発生初期 ベストガード水溶剤 2,000倍 モスピラン顆粒水溶剤 4,000倍 スピノエース顆粒水和剤 5,000倍 ディアナSC 5,000倍 アグリメック 1,000倍 コテツフロアブル 2,000倍 カスケード乳剤 4,000倍 ファインセーブフロアブル 2,000倍	前－3 前－2 前－2 前－2 前－3 前－2 前－3 前－3	1 ベストガード水溶剤、カスケード乳剤はミナミキイロアザミウマ適用。 2 コテツフロアブルはミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ適用。
オオタバコガ	○発生初期 アフーム乳剤 2,000倍 フェニックス顆粒水和剤 4,000倍 ディアナSC 5,000倍 カスケード乳剤 2,000倍 マッチ乳剤 2,000倍 エスマルクDF 1,000倍 デルフィン顆粒水和剤 1,000倍	前－2 前－2 前－2 前－3 前－4 発生初期(収穫前日)―― 発生初期(収穫前日)――	
ハダニ類 〔・ナミハダニ ・カンザワハダニ〕	○発生初期 コロマイト乳剤 1,000倍 カネマイトフロアブル 1,000倍 マイトコーネフロアブル 1,000倍 コテツフロアブル 2,000倍 サフオイル乳剤 500倍	前－2 前－1 前－1 前－2 前――	ハダニ類防除薬剤の系統分類の頁参照。
カメムシ類	○発生初期 スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 アルバリン顆粒水溶剤 2,000倍 アディオナ乳剤 2,000倍	前－2 前－5	
ネコブセンチュウ	○は種または定植前 1 連作を避ける。 2 土壌消毒（土壌消毒の頁参照） 3 薬剤処理 ネマキック粒剤 15kg/10a 全面土壌混和 ネマトリンエース粒剤 15kg/10a 全面土壌混和	定植前－1 定植前－1	

きゅうり病害防除農薬一覧①

農 薬 名	R A C コ ー ド	有 効 成分名	本剤の 使 用 回 数	当該成分を 含む農薬の 総使用回数	適 用 病 害 名											
					苗 立 枯 病	つ る 割 病	つ る 枯 病	べ と 病	褐 斑 病	炭 疽 病	黒 星 病	う ど ん こ 病	灰 色 か び 病	菌 核 病	疫 病	斑 点 細 菌 病
タチガレン液剤	32	ヒドロキシソキサゾール カリウム	3	3	○ ※a											
ベンレート水和剤	1	ベノミル	3	4※1		○	○			○	○		○	○		
ニマイバー水和剤	10	ジエトフェンカルブ	3	5					○	○			○	○		
	1	ベノミル		4※1												
トップジンM水和剤	1	チオファネートメチル	5	6※2			○			○	○	○	○	○		
トップジンMペースト	1	チオファネートメチル	5	6※2			○									
ゲッター水和剤	10	ジエトフェンカルブ	5	5					○	○			○	○		
	1	チオファネートメチル		6※2												
エトフィンフロアブル	22	エタボキサム	4	4				○								
プロパティフロアブル	50	ピリオフェノン	3	3								○				
カンタスドライフロアブル	7	ボスカリド	3	3					○				○	○		
アフェットフロアブル	7	ベンチオピラド	3	3									○	○	○	
パレード20フロアブル	7	ピラジフルミド	3	3			○		○				○	○	○	
アミスター20フロアブル	11	アゾキシストロビン	4	4				○	○	○			○	○	○	
ストロビーフロアブル	11	クレソキシムメチル	3	3				○	○	○		○				
ホライズンドライフロアブル	27	シモキサニル	3	3				○								
	11	ファモキサドン		3												
ファンタジスタ顆粒水和剤	11	ピリベンカルブ	3	3										○	○	
ランマンフロアブル	21	シアゾファミド	4	4				○								
ザンブロDMフロアブル	45	アメクトトラジン	3	3				○								
	40	ジメトモルフ		3												
フルピカフロアブル	9	メパニピリム	4	4					○				○	○		
ショウチノスケ フロアブル	U13	フルチアニル	2	2									○	○		
	9	メパニピリム		4												
セイビアーフロアブル20	12	フルジオキシニル	3	3					○				○	○		
ロブラール500アクア	2	イプロジオン	4	5※3			○						○	○		
スミレックス水和剤	2	プロシミドン	6	6 (常温煙霧2回以内)			○						○	○		
			2(常温煙霧)									○				
リゾレックス水和剤	14	トルクロホスメチル	1	1	○ ※b											
ゾーベックエニベル	49	オキサチアピプロリン	2	2				○								
	M3	マンゼブ		3												
トリフミン乳剤	3	トリフルミゾール	5	5									○			
トリフミン水和剤	3	トリフルミゾール	5	5								○	○			

※1 種子処理は1回以内、は種後は3回以内 ※2 種子処理は1回以内、は種後は5回以内

※3 種子粉衣は1回以内、は種後は4回以内

※a フザリウム菌、ピシウム菌適用 ※b リゾクトニア菌適用

きゅうり病害防除農薬一覧②

農 薬 名	R A C コード	有 効 成分名	本剤の 使 用 回 数	当該成分を 含む農薬の 総使用回数	適 用 病 害 名											
					苗 立 枯 病	つる 割 病	つる 枯 病	べ と 病	褐 斑 病	炭 疽 病	黒 星 病	う ど ん こ 病	灰 色 か び 病	菌 核 病	疫 病	斑 点 細 菌 病
ベトファイター顆粒水和剤	27	シモキサニル	3	3				○								
	40	ベンチアバリカルブ イソプロピル		3												
プロポーズ顆粒水和剤	40	ベンチアバリカルブ イソプロピル	3	3				○	○		○	○				
	M5	T P N		14※4												
パンチョ T F 顆粒水和剤	U6	シフルフェナミド	2	2								○				
	3	トリフルミゾール		5												
ピシロックフロアブル	U17	ピカルブトラゾクス	3	3				○※d								
バリダシン液剤5	U18	バリダマイシン	1	1	○※b											
ハーモメイト水溶剤	NC	炭酸水素ナトリウム	—	—								○※c	○※c			
Zボルドー	M1	塩基性硫酸銅	—	—				○※e								○※e
カッパーシン水和剤 カスミンボルドー	24	カスガマイシン	5	5				○				○				○
	M1	塩基性塩化銅		—												
ペンコゼブ水和剤	M3	マンゼブ	3	3				○	○	○	○					
ジマンダイセン水和剤						○	○	○	○	○				○	○	
ペンコゼブフロアブル	M3	マンゼブ	3	3				○	○	○						
ジマンダイセンフロアブル							○	○								
リドミルゴールド M Z	M3	マンゼブ	3	3				○								
	4	メタラキシル M		4※1												
オーソサイド水和剤80	M4	キャプタン	1 (は種前)	5 (種子粉衣1回以内)	○											
			5 (は種後 2～3葉期)		○											
			5				○	○	○	○						
ダコニール1000	M5	T P N	8	14※4				○	○	○	○	○	○			
			2 (は種時又は 活着後、定植 14日後まで)		○※b											
ベルクートフロアブル	M7	イミノクタジナル ベシル酸塩	7	7					○	○	○	○	○	○		
パルミノ	M10	キノキサリン系	3	3								○				
ボトキラー水和剤	BM2	バチルス ズブチリス	—	—								○※c	○※c			
インプレッションクリア	BM2	バチルス アミロリクエファシエンス	—	—								○※c	○※c			

※1 種子処理は1回以内、は種後は3回以内

※4 土壌灌注は2回以内、散布、常温煙霧、くん煙、エアゾル剤噴射は合計12回以内

※b リゾクトニア菌適用 ※c 野菜類登録 ※d うり類登録 ※e 野菜類（キャベツを除く）

きゅうり害虫防除農薬一覧①

農薬名	RACコード	有効成分名	本剤の使用回数	当該成分を含む農薬の総使用回数	適用害虫名					
					アブラムシ類	ハダニ類	コナジラミ類	アザミウマ類	ミナミキイロアザミウマ	ミカンキイロアザミウマ
アーデント水和剤	3A	アクリナトリン	4	4	○	○	○※a			○
モスピラン粒剤	4A	アセタミプリド	1	5※1	○					
モスピラン顆粒水溶剤	4A	アセタミプリド	3	5※1	○		○	○		
スタークル粒剤	4A	ジノテフラン	1(育苗期)	4※2	○		○			
アルバリン粒剤			1(定植時)		○		○	○		
			1		○		○			
スタークル顆粒水溶剤	4A	ジノテフラン	2	4※2	○		○	○		
アルバリン顆粒水溶剤										
アドマイヤー1粒剤	4A	イミダクロプリド	1(育苗期後半)	4※3	○					
			1(定植時)		○		○	○		
アドマイヤーフロアブル	4A	イミダクロプリド	3	4※3	○※b			○※b		
アクタラ顆粒水溶剤	4A	チアメトキサム	3	4※4	○		○			○
ダントツ粒剤	4A	クロチアニジン	1(育苗期後半、定植時)	4※5	○		○		○	
			3		○					
ダントツ水溶剤	4A	クロチアニジン	3	4※5	○		○		○	
ベストガード粒剤	4A	ニテンピラム	1(は種時)	4※6	○		○	○		
			1(育苗期)		○		○	○		
			1(鉢上げ期)		○		○	○		
			1(定植時)		○		○	○		
ベストガード水溶剤	4A	ニテンピラム	3	4※6	○		○		○	
トランスフォームフロアブル	4C	スルホキサフロル	2	2	○		○			
スピノエース顆粒水和剤	5	スピノサド	2	2				○		
ディアナSC	5	スピネトラム	2	2			○	○		
アフーム乳剤	6	エマメクチン安息香酸塩	2	2			○	○		
コロマイト乳剤	6	ミルベメクチン	2	2		○	○			
アグリメック	6	アバメクチン	2	2		○	○	○		
コルト顆粒水和剤	9B	ピリフルキナゾン	3	3	○		○			
コテツフロアブル	13	クロルフェナピル	3	3		○			○	○
カスケード乳剤	15	フルフェノクスロン	4	4					○	
アブロード水和剤	16	ブプロフェジン	3	3			○※c			
カネマイトフロアブル	20B	アセキノシル	1	1		○				
マイトコーネフロアブル	20D	ビフェナゼート	1	1		○				
ハチハチ乳剤	21A	トルフェンピラド	2	2	○		○	○		
モベントフロアブル	23	スピロテトラマト	1(育苗期後半～定植当日)	3 (灌注1回以内)	○	○	○	○		
			3		○	○	○	○		
ダブルフェースフロアブル	25B	ピフルブミド	1	1						
	21A	フェンピロキシメート		3		○				
プリロッソ粒剤オメガ	28	シアントラニリプロール	1(鉢上げ時)	4※6	○					
			1(育苗期後半～定植時)		○	○	○	○		
ウララDF	29	フロニカミド	3	3	○		○			
グレーシア乳剤	30	フルキサメタミド	2	2		○	○	○		
プレオフロアブル	UN	ピリダリル	2	2				○		
サンクリスタル乳剤	—	脂肪酸グリセリド	—	—	○※d	○※d	○※d			
粘着くん液剤	—	ヒドロキシプロピルデンブン	—	—	○※e	○※e	○※e			
サフオイル乳剤	—	調合油	—	—	○※f	○※f	○※f			
フーモン	—	ポリグリセリン脂肪酸エステル	—	—	○※e	○※e	○※e			

※1 粒剤の定植時までの処理は1回以内、2%粒剤の定植後株元散布は1回以内、散布、くん煙、1%粒剤の株元散布は合計3回以内

※2 育苗期の株元散布、定植時の土壌混和は合計1回以内、定植後の株元散布は1回以内、散布は2回以内

※3 育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散及び常温煙霧は合計3回以内

※4 定植時までの処理は1回以内、散布は3回以内

※5 育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布、定植後株元散布は合計3回以内

※6 定植時までの処理は1回以内、定植後は3回以内 ※a オンシツコナジラミ適用 ※b きゅうり（施設栽培）登録

※c オンシツコナジラミ幼虫適用 ※d 野菜類（なす、トマト、ミニトマト、しゅんぎくを除く）登録

※e 野菜類登録 ※f 野菜類（いちご、トマト、ミニトマトを除く）登録

きゅうり害虫防除農薬一覧②

農薬名	RACコード	有効成分名	本剤の使用回数	当該成分を含む農薬の総使用回数	適用害虫名						
					タネバエ	ウリハムシ	ハスモンヨトウ	ウリノメイガ	オオタバコガ	ハモグリバエ類	ネコブセンチュウ
ダイアジノン粒剤5	1B	ダイアジノン	2(は種時又は定植時)	2	○						
ネマキック粒剤	1B	イミシアホス	1(定植前)	2※8							○
ネマキック液剤	1B	イミシアホス	1	2※8							○
ネマトリンエース粒剤	1B	ホスチアゼート	1(は種前又は定植前)	1							○
モスピラン顆粒水溶剤	4A	アセタミプリド	3	5※1		○		○			
スタークル粒剤 アルバリン粒剤	4A	ジノテフラン	1(育苗期)	4※2						○	
			1(定植時)							○	
スタークル顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤	4A	ジノテフラン	2	4※2		○					
スピノエース顆粒水和剤	5	スピノサド	2	2				○		○	
ディアナSC	5	スピネトラム	2	2				○		○	
アフーム乳剤	6	エマメクチン安息香酸塩	2	2			○	○		○	
コロマイト乳剤	6	ミルベメクチン	2	2						○	
デルフィン顆粒水和剤	11A	B T (生菌)	—	—			○※e	○※e	○※e		
コテツフロアブル	13	クロルフェナピル	3	3		○		○			
カスケード乳剤	15	フルフェノクスロン	4	4				○		○※g	
マトリックフロアブル	18	クロマフェノジド	3	3				○			
ハチハチ乳剤	21A	トルフェンピラド	2	2				○			
プレバソンフロアブル5	28	クロラントラニプロール	1(育苗期後半～定植当日)	4※4						○	
			3					○		○	
フェニックス顆粒水和剤	28	フルベンジアミド	3	3			○	○			
ヨーバルフロアブル	28	テトラニプロール	1(育苗期後半～定植当日)	4※9						○	
			3			○	○	○		○	
グレーシア乳剤	30	フルキサメタミド	2	2			○	○		○	
プレオフロアブル	UN	ピリダリル	2	2				○		○	

※1 粒剤の定植時までの処理は1回以内、2%粒剤の定植後株元散布は1回以内、散布、くん煙、1%粒剤の株元散布は合計3回以内

※2 育苗期の株元散布、定植時の土壌混和は合計1回以内、定植後の株元散布は1回以内、散布は2回以内

※4 定植時までの処理は1回以内、散布は3回以内 ※8 定植前の土壌混和は1回以内、生育期の土壌灌注は1回以内

※9 灌注は1回以内、散布は3回以内 ※e 野菜類登録 ※g トマトハモグリバエ適用

病害虫名	防除時期及び防除法	使用時期-本剤の使用回数	注意事項
苗立枯病	○は種前 土壌消毒（土壌消毒の頁参照） ○は種時～生育初期 1 多湿にならないよう灌水に注意する。 2 薬剤処理 タチガレン液剤 1000倍 3L/㎡土壌灌注 リゾレックス水和剤 500倍 3L/㎡土壌灌注 バリダシン液剤5 800倍 3L/㎡灌注 オーソサイド水和剤80 800倍 2L/㎡灌注	は種直後－3 は種時－1 は種直後－1 は種後から2～3葉期まで－5	1 タチガレン液剤はフザリウム菌、ピシウム菌適用。 2 リゾレックス水和剤、バリダシン液剤5は、リゾクトニア菌適用。
つる割病	○は種前 1 土壌消毒（土壌消毒の頁参照） 2 資材消毒（資材消毒の頁参照） ○定植前 カボチャ台木に接木する。		
つる枯病	○は種前 資材消毒（資材消毒の頁参照） ○生育期 1 薬剤散布 トップジンM水和剤 2,000倍 ロブラール500アクア 1,500倍 スミレックス水和剤 1,000倍 オーソサイド水和剤80 800倍 パレード20フロアブル 4,000倍 2 薬剤塗布 トップジンMペースト 原液 3 発病株は早期に抜き取り適切に処分する。	前－5 前－4 前－6 前－5 前－3 発病初期－5	1 薬剤は茎の地際部まで十分に散布する。 2 トップジンM水和剤とトップジンMペーストの総使用回数は合わせて5回以内。
べと病	○生育期 1 施設栽培では、施設内の換気を図り、多湿にならないようにする。 2 予防散布を徹底し病葉は早期に摘み取る 3 薬剤散布 Zボルドー 500倍 ペンコゼブフロアブル 1,000倍 ジマンダイセンフロアブル 800倍 ゾーベックエンテクタSE 4,000倍 リドミルゴールドMZ 1,000倍 アミスター20フロアブル 2,000倍 ストロビーフロアブル 3,000倍 ホライズンドライフロアブル 2,500倍 ベトファイター顆粒水和剤 3,000倍 ダコニール1000 1,000倍 ランマンフロアブル 2,000倍 プロポーズ顆粒水和剤 1,500倍 エトフィンフロアブル 1,000倍 ザンプロDMフロアブル 2,000倍 ピシロックフロアブル 1,000倍	―― 前－3 前－3 前－2 前－3 前－4 前－3 前－3 前－3 前－12 前－4 前－3 前－4 前－3 前－3	1 ペンコゼブフロアブルとジマンダイセンフロアブルの総使用回数は合わせて3回以内。 2 リドミルゴールドMZ、ペンコゼブフロアブル、ジマンダイセンフロアブルの総使用回数は3剤合わせて3回以内。 3 ダコニール1000とプロポーズ顆粒水和剤の総使用回数は合わせて12回以内。 4 ホライズンドライフロアブルとベトファイター顆粒水和剤の総使用回数は合わせて3回以内。 5 プロポーズ顆粒水和剤とベトファイター顆粒水和剤の総使用回数は合わせて3回以内。 6 アミスター20フロアブル、ストロビーフロアブルは浸透性展着剤との混用を避ける。
炭疽病	○は種前 資材消毒（資材消毒の頁参照） ○生育期 ペンコゼブ水和剤 600倍 ジマンダイセン水和剤 800倍 オーソサイド水和剤80 2,000倍 アミスター20フロアブル 1,000倍 ダコニール1000 2,000倍 ベルコートフロアブル 1,500倍 ゲッター水和剤 1,000倍 ニマイバー水和剤 1,000倍	前－3 前－5 前－4 前－12 前－7 前－5 前－3	1 ゲッター水和剤とニマイバー水和剤の総使用回数は合わせて5回以内。 2 アミスター20フロアブルは浸透性展着剤との混用を避ける。

病害虫名	防除時期及び防除法	使用時期-本剤の使用回数	注意事項
褐斑病	○生育期 1 施設栽培では、施設内の換気を図り、多湿にならないようにする。 2 予防散布を徹底し病葉は早期に摘み取る。 3 薬剤散布 ペンコゼブフロアブル 500倍 ジマンダイセンフロアブル 800倍 セイビアーフロアブル20 1,000倍 オーソサイド水和剤80 800倍 ダコニール1000 1,000倍 プロポーズ顆粒水和剤 1,000倍 カンタスドライフロアブル 1,500倍 ベルクートフロアブル 2,000倍	前－3 前－3 前－3 前－5 前－12 前－3 前－3 前－7	1 ペンコゼブフロアブルとジマンダイセンフロアブルの総使用回数は合わせて3回以内。 2 ダコニール1000とプロポーズ顆粒水和剤の総使用回数は合わせて12回以内。 3 カンタスドライフロアブル、ベルクートフロアブルは薬剤耐性が発達しやすいため散布回数に注意する。
黒星病	○は種前 資材消毒（資材消毒の頁参照） ○生育期 ダコニール1000 1,000倍 トップジンM水和剤 2,000倍 トリフミン水和剤 5,000倍 プロポーズ顆粒水和剤 1,000倍	前－12 前－5 前－5 前－3	ダコニール1000とプロポーズ顆粒水和剤の総使用回数は合わせて12回以内。
うどんこ病	○は種前 耐病性品種を用いる。 ○生育期 トリフミン乳剤 2,000倍 トリフミン水和剤 5,000倍 パンチョTF顆粒水和剤 2,000倍 フルピカフロアブル 3,000倍 ベルクートフロアブル 2,000倍 アミスター20フロアブル 2,000倍 パルミノ 2,000倍 アフェットフロアブル 2,000倍 プロパティフロアブル 4,000倍 ショウチノスケフロアブル 2,000倍 パレード20フロアブル 4,000倍 ハーモメイト水溶剤 1,000倍 インプレッションクリア 2,000倍 ボトキラー水和剤 1,000倍	前－5 前－5 前－2 前－4 前－7 前－4 前－3 前－3 前－3 前－2 前－3 前－ 発病前～発病初期―― 発病前～発病初期――	1 同一系統薬剤の連用を避ける（野菜の灰色かび病、うどんこ病防除薬剤の系統分類の頁参照）。 2 トリフミン乳剤、トリフミン水和剤、パンチョTF顆粒水和剤の総使用回数は3剤合わせて5回以内。 3 フルピカフロアブルとショウチノスケフロアブルの総使用回数は合わせて4回以内。 4 アミスター20フロアブルは浸透性展着剤との混用は避ける。
灰色かび病	○生育期 1 施設栽培では、施設内の換気を図り、多湿にならないようにする。 2 発病初期の花弁、茎葉は早期に除去し、ハウス、トンネル外に出す。 3 薬剤散布 ゲッター水和剤 1,500倍 フルピカフロアブル 3,000倍 ベルクートフロアブル 2,000倍 カンタスドライフロアブル 1,500倍 アフェットフロアブル 2,000倍 ファンタジスタ顆粒水和剤 3,000倍 ロブラール500アクア 1,500倍 スミレックス水和剤 2,000倍 ミギワ10フロアブル 1,000倍 ボトキラー水和剤 1,000倍 インプレッションクリア 2,000倍 4 ダクト内投入 ボトキラー水和剤 10g/10a/日	前－5 前－4 前－7 前－3 前－3 前－3 前－4 前－6 前－3 発病前～発病初期―― 発病前～発病初期―― 発病前～発病初期――	同一系統薬剤の連用を避ける（野菜の灰色かび病、うどんこ病防除薬剤の系統分類の頁参照）。

病害虫名	防除時期及び防除法	使用時期-本剤の使用回数	注意事項
菌核病	○生育期 1 施設栽培では、施設内の換気を図り、多湿にならないようにする。 2 薬剤散布 トップジンM水和剤 2,000倍 ベンレート水和剤 3,000倍 ベルコートフロアブル 2,000倍 カンタスドライフロアブル 1,500倍 ロブラール500アクア 1,500倍 スミレックス水和剤 2,000倍	前－5 前－3 前－7 前－3 前－4 前－6	カンタスドライフロアブル、ベルコートフロアブルは薬剤耐性が発達しやすいため散布回数に注意する。
疫病	○生育期 1 水田転換畑では高うねとする。 2 うね間灌水する場合は、株元まで灌水しないようにする。 3 薬剤散布 ジマンダイセン水和剤 600倍	前－3	
斑点細菌病	○は種前 1 連作は避ける。 2 資材消毒（資材消毒の頁参照） ○生育期 Zボルドー 500倍 銅パーシン水和剤 1,000倍 カスミンボルドー	--- 前－5	銅剤は薬害が発生しやすいので、近接散布を避け、散布間隔は7日以上あける。
モザイク病 〔・CMV ・WMV ・ZYMV ・PRSV〕	○は種前 1 耐病性品種を用いる。 2 ハウス出入口に防虫ネットを張る。 ○定植時 定植時にアブラムシ防除剤（粒剤）を施用する。 ○生育期 1 アブラムシ類の防除を徹底する。 2 発病株は早期に抜き取り、適切に処理する。		
黄化病 〔・BPYV〕	○生育期 オンシツコナジラミの防除を徹底する。		
アブラムシ類 〔・ワタアブラムシ ・モモアブラムシ ・ジャガ・イモガ カアブラムシ〕	○育苗期～定植時 アドマイヤー1粒剤 1g/株 育苗期後半：株元散布 定植時：植穴または株元土壌混和 モスピラン粒剤 0.5g/株 株元散布 ベストガード粒剤 1g/株 育苗期：株元処理 定植時：植穴処理土壌混和 スタークル粒剤 1g/株 アルバリン粒剤 育苗期：株元散布 定植時：植穴土壌混和 ○発生初期 アドマイヤーフロアブル 4,000倍 モスピラン顆粒水溶剤 4,000倍 ベストガード水溶剤 2,000倍 ダントツ水溶剤 4,000倍 アクタラ顆粒水溶剤 3,000倍 ハチハチ乳剤 2,000倍 コルト顆粒水和剤 4,000倍 チェス顆粒水和剤 5,000倍 ウララDF 4,000倍 トランスフォームフロアブル 2,000倍 粘着くん液剤 100倍 サンクリスタル乳剤 300倍	育苗期後半－1 定植時－1 定植時－1 育苗期－1 定植時－1 育苗期－1 定植時－1 前－3 前－3 前－3 前－3 前－3 前－3 前－3 前－3 前－3 前－2 前－3 前－3 前－2 前－1 前－1	1 アドマイヤー1粒剤の育苗期後半または定植時の処理は、どちらか1回。 2 ベストガード粒剤の育苗期または定植時の処理は、どちらか1回。 3 スタークル粒剤及びアルバリン粒剤の育苗期または定植時の処理は、どちらか1回。 4 アドマイヤーフロアブルはきゅうり（施設栽培）登録。 5 アブラムシ類防除薬剤の系統分類の頁参照。

病害虫名	防除時期及び防除法	使用時期-本剤の使用回数	注意事項
ハダニ類 (・ナミハダニ ・カンザワハダニ)	○発生初期 コロマイト乳剤 1,500倍 カネマイトフロアブル 1,500倍 マイトコーネフロアブル 1,000倍 コテツフロアブル 2,000倍 ダブルフェースフロアブル 2,000倍 ダニオーテフロアブル 2,000倍 アグリメック 1,000倍 グレーシア乳剤 2,000倍 粘着くん液剤 100倍 サフオイル乳剤 500倍 フーモン 1,000倍	前-2 前-1 前-1 前-3 前-1 前-2 前-2 前-2 前-1 前-1 前-1	同一系統薬剤の連用を避ける(ハダニ類防除薬剤の系統分類の頁、ハダニ類を対象とする殺ダニ剤の系統と特性の頁参照)。
コナジラミ類 (・ハコナジラミ ・オンシツコナジラミ)	○育苗期～定植時 1 補虫リボン、誘引捕殺粘着シート(黄色)を用いる。 2 薬剤処理 ダントツ粒剤 1g/株 育苗期後半：株元処理 定植時：植穴処理土壌混和 ベストガード粒剤 1g/株 育苗期：株元処理 定植時：植穴処理土壌混和 スタークル粒剤 1g/株 アルバリン粒剤 1g/株 育苗期：株元散布 定植時：植穴土壌混和 プリロツソ粒剤オメガ 2g/株 株元散布 ○発生初期 モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍 ベストガード水溶剤 2,000倍 ダントツ水溶剤 4,000倍 スタークル顆粒水溶剤 3,000倍 アルバリン顆粒水溶剤 3,000倍 ハチハチ乳剤 2,000倍 モベントフロアブル 2,000倍 アブロード水和剤 2,000倍 アグリメック 1,000倍 アフーム乳剤 2,000倍 サフオイル乳剤 300倍	育苗期後半-1 定植時-1 育苗期-1 定植時-1 育苗期-1 定植時-1 育苗期後半～定植時-1 前-3 前-3 前-3 前-2 前-2 前-3 前-3 前-2 前-2 前-2 前-1	1 ダントツ粒剤の育苗期後半または定植時の処理は、どちらか1回。 2 ベストガード粒剤の育苗期または定植時の処理は、どちらか1回。 3 スタークル粒剤及びアルバリン粒剤の育苗期または定植時の処理は、どちらか1回。 4 アブロード水和剤はオンシツコナジラミ幼虫適用。 5 コナジラミ類防除薬剤の系統分類の頁参照。
アザミウマ類 (・ミナミアザミウマ ・ミナミアザミウマ ・ミナミアザミウマ ・ミナミアザミウマ)	○定植時 1 施設栽培の場合は、侵入防止のため、開口部に防虫ネットを張る。 2 薬剤処理 アドマイヤー1粒剤 1g/株 定植時：植穴または株元土壌混和 スタークル粒剤 2g/株 アルバリン粒剤 1g/株 定植時：植穴土壌混和 ベストガード粒剤 1g/株 定植時：植穴処理土壌混和 ○発生初期 スピノエース顆粒水和剤 5,000倍 ディアナSC 5,000倍 アフーム乳剤 2,000倍 アルバリン顆粒水溶剤 2,000倍 スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 モスピラン顆粒水溶剤 4,000倍 アドマイヤーフロアブル 4,000倍 ハチハチ乳剤 2,000倍 プレオフロアブル 1,000倍 グレーシア乳剤 2,000倍	定植時-1 定植時-1 定植時-1 前-2 前-2 前-2 前-2 前-3 前-3 前-2 前-2 前-2	アドマイヤーフロアブルはきゅうり(施設栽培)登録。

きゅうり

病害虫名	防除時期及び防除法	使用時期-本剤の使用回数	注意事項
ミナミキイロ アザミウマ	○育苗期～定植時 ダントツ粒剤 育苗期後半：株元処理 1g/株 定植時：植穴処理土壌混和 2g/株 ○発生初期 ベストガード水溶剤 2,000倍 ダントツ水溶剤 4,000倍 コテツフロアブル 2,000倍 カスケード乳剤 4,000倍	育苗期後半－1 定植時－1 前－3 前－3 前－3 前－4	ダントツ粒剤の育苗期後半または定植時の処理は、どちらか1回。
ミカンキイロ アザミウマ	○発生初期 アーデント水和剤 1,000倍 アクタラ顆粒水溶剤 2,000倍 コテツフロアブル 2,000倍	前－4 前－3 前－3	
タネバエ	○は種前 完熟堆肥を用いる。 ○は種時または定植時 ダイアジノン粒剤5 4kg/10a 全面土壌混和 又は作条土壌混和	は種時又は定植時－2	未熟な有機物を用いると多発しやすいので注意する。
ウリハムシ	○発生初期 モスピラン顆粒水溶剤 4,000倍 コテツフロアブル 2,000倍 ヨーバルフロアブル 2,500倍	前－3 前－3 前－3	
ハスモンヨトウ	○発生初期 アフーム乳剤 2,000倍 フェニックス顆粒水和剤 4,000倍 ヨーバルフロアブル 5,000倍	前－2 前－3 前－3	
ウリノメイガ	○発生初期 カスケード乳剤 2,000倍 アフーム乳剤 2,000倍 ハチハチ乳剤 2,000倍 スピノエース顆粒水和剤 5,000倍 マトリックフロアブル 2,000倍 フェニックス顆粒水和剤 4,000倍 ブレバソンフロアブル5 2,000倍	前－4 前－2 前－2 前－2 前－3 前－3 前－3	
オオタバコガ	○発生初期 デルフィン顆粒水和剤 1,000倍	発生初期(収穫前日)－	
ハモグリバエ類 (・マメハモグリバエ ・トマトハモグリバエ)	○育苗期～定植時 スタークル粒剤 2g/株 アルバリン粒剤 育苗期：株元散布 定植時：植穴土壌混和 ○発生初期 カスケード乳剤 2,000倍 アフーム乳剤 2,000倍 プレオフロアブル 1,000倍 コロマイト乳剤 1,000倍 スピノエース顆粒水和剤 5,000倍	育苗期－1 定植時－1 前－4 前－2 前－2 前－2 前－2	1 スタークル粒剤及びアルバリン粒剤の育苗期または定植時の処理は、どちらか1回。 2 カスケード乳剤はトマトハモグリバエ適用。
ネコブ センチュウ	○は種または定植前 1 連作を避ける。 2 土壌消毒(土壌消毒の頁参照) 3 薬剤処理 ネマキック粒剤 15kg/10a 全面土壌混和 ネマトリンエース粒剤 15kg/10a 全面土壌混和 ○生育期 ネマキック液剤 4,000倍 2L/㎡土壌灌注	定植前－1 は種前又は定植前－1 生育期(収穫前日)－1	

か ぼ ち ゃ 病 害 虫 防 除 農 薬 一 覧

農 薬 名	R A C コ ー ド	有 効 成分名	本剤の 使 用 回 数	当該成分を 含む農薬の 総使用回数	適 用 病 害 虫 名									
					べと病	うどんこ病	灰色かび病	疫病	立枯病	アブラムシ類	タネバエ	カボチャミバエ	ウリハムシ	
アフエットフロアブル	7	ペンチオピラド	3	3		○								
ストロビーフロアブル	11	クレソキシムメチル	3	3	○	○								
ランマンフロアブル	21	シアゾファミド	3	3	○			○						
ボトキラー水和剤	BM2	バチルス ズブチリス	—	—		○※a	○※a							
トリフミン水和剤	3	トリフルミゾール	1 (は種前)	5 (種子粉衣1回以内)					○※b					
			5			○								
パンチョ T F 顆粒水和剤	3	トリフルミゾール	2	5 (種子粉衣1回以内)		○								
	U6	シフルフェナミド		2										
ベトファイター顆粒水和剤	40	ベンチアバリカルブ イソプロピル	3	3				○						
	27	シモキサニル		3										
ペンコゼブ水和剤 ジマンダイセン水和剤	M3	マンゼブ	2	2	○			○						
オーソサイド水和剤80	M4	キャプタン	5	5 (種子粉衣1回以内)	○									
ダコニール1000	M5	T P N	3	3	○	○								
ベルコート水和剤	M7	イミノクタジン アルベシル酸塩	4	4		○								
モレスタン水和剤	M10	キノキサリン系	3	3		○								
ダイアジノン粒剤3	1B	ダイアジノン	1 (植付時)	4※1										○※c
			2(は種時、 植付時)								○			
アドマイヤーフロアブル	4A	イミダクロプリド	2	3※2						○				
モスピラン粒剤	4A	アセタミプリド	1(は種時 又は定植時)	3※3						○				
モスピラン顆粒水溶剤	4A	アセタミプリド	2	3※3						○		○	○	

※1 粒剤の生育期の処理は3回以内 ※2 定植時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内

※3 粒剤の定植時までの処理は1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計2回以内

※a 野菜類登録 ※b フザリウム立枯病適用 ※c ウリハムシ幼虫適用

かぼちゃ

病害虫名	防除時期及び防除法	使用時期-本剤の使用回数	注意事項
べと病	○生育期 オーソサイド水和剤80 600倍 ペンコゼブ水和剤 600倍 ジマンダイセン水和剤 600倍 ダコニール1000 1,000倍 ストロビーフロアブル 3,000倍 ランマンフロアブル 2,000倍	14-5 21-2 21-2 7-3 前-3 前-3	ストロビーフロアブルは浸透性展着剤との混用を避ける。
うどんこ病	○生育期 トリフミン水和剤 5,000倍 パンチョTF顆粒水和剤 2,000倍 モレスタン水和剤 4,000倍 ベルコート水和剤 2,000倍 ダコニール1000 1,000倍 ストロビーフロアブル 3,000倍 アフエットフロアブル 2,000倍	前-5 前-2 3-3 7-4 7-3 前-3 前-3	1 トリフミン水和剤とパンチョTF顆粒水和剤の総使用回数は合わせて5回以内。 2 ストロビーフロアブルは浸透性展着剤との混用を避ける。
灰色かび病	○生育期 ボトキラー水和剤 1,000倍	発病前～発病初期――	
疫病	○生育期 ペンコゼブ水和剤 600倍 ジマンダイセン水和剤 600倍 ベトファイター顆粒水和剤 2,000倍	21-2 21-2 3-3	
立枯病	○は種前 土壌消毒（土壌消毒の頁参照）		
モザイク病 ・TMV ・CMV ・ZYMV	○生育期 1 アブラムシ類の防除を徹底する。 2 発病株は早期に抜き取り、適切に処分する。		
アブラムシ類 ・ワタアブラムシ ・ジャガイトビガ ナガアブラムシ ・モモアブラムシ	○は種時または定植時 モスピラン粒剤 1g/株 は種時：播溝土壌混和 定植時：植穴土壌混和 ○発生初期 モスピラン顆粒水溶剤 4,000倍 アドマイヤーフロアブル 4,000倍 ウララDF 4,000倍	は種時-1 定植時-1 前-2 前-2 7-2	1 モスピラン粒剤のは種時または定植時の処理はどちらか1回。 2 アブラムシ類防除薬剤の系統分類の頁参照。 3 アドマイヤーフロアブルの使用時期は「露地栽培については着果後」。
タネバエ	○は種前 完熟堆肥を用いる。未熟な有機物を用いると多発しやすいので注意する。 ○は種時または植付時 ダイアジノン粒剤3 5kg/10a 土壌混和	は種時又は植付時-2	
カボチャミバエ	○は種前 前年発生ほ場では、連作を避ける。 ○開花前～幼果期 1 産卵痕（ヤニを出す）のある幼果を除去する。 2 薬剤散布 モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍	前-2	
ウリハムシ	○植付時 ダイアジノン粒剤3 6kg/10a 土壌混和 ○発生初期 モスピラン顆粒水溶剤 4,000倍	植付時-1 前-2	ダイアジノン粒剤3はウリハムシ幼虫適用。
センチュウ類 ・サツマセンチュウ ・ネコセンチュウ ・キタネコセンチュウ	○は種前または定植前 土壌消毒（土壌消毒の頁参照）		

ズッキーニ病害虫防除農薬一覧

農薬名	RACコード	有効成分名	本剤の使用回数	当該成分を含む農薬の総使用回数	適用病害虫名							
					べと病	うどんこ病	アブラムシ類	アザミウマ類	コナジラミ類	オオタバコガ	ハモグリバエ類	ネコブセンチュウ
アフエットフロアブル	7	ペンチオピラド	3	3		○						
アミスター20フロアブル	11	アゾキシストロビン	4	4		○						
ストロビーフロアブル	11	クレソキシムメチル	3	3		○						
ランマンフロアブル	21	シアゾファミド	4	4	○							
パンチョTF顆粒水和剤	U6	シフルフェナミド	2	2	○							
	3	トリフルミゾール		4								
Zボルドー	M1	塩基性硫酸銅	—	—	○※a							
ダコニール1000	M5	TPN	3	3		○						
ベルコート水和剤	M7	イミノクタジナルベシル酸塩	7	7		○						
ネマトリンエース粒剤	1B	ホスチアゼート	1	1								○
アディオン乳剤	3A	ペルメトリン	3	6※1			○					
スタークル粒剤 アルバリン粒剤	4A	ジノテフラン	1(定植時)	4※2			○		○			
			1				○					
スタークル顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤	4A	ジノテフラン	2	4※2			○					
ベストガード粒剤	4A	ニテンピラム	1(定植時)	1				○				
バリアード顆粒水和剤	4A	チアクロプリド	3	3			○					
スピノエース顆粒水和剤	5	スピノサド	3	3				○				
アフーム乳剤	6	エマメクチン安息香酸塩	2	2						○		
チェス顆粒水和剤	9B	ピメトロジン	2	3※3			○					
デルフィン顆粒水和剤	11A	BT(生菌)	—	—						○※b		
モベントフロアブル	23	スピロテトラマト	3	3			○		○			
プレバソンフロアブル5	28	クロラントラニリプロール	3	3							○	
サフオイル乳剤	—	調合油	—	—		○※c	○※c		○※c			

※1 乳剤は3回以内、粒剤は3回以内

※2 定植時の土壌混和は1回以内、定植後の株元散布は1回以内、散布は2回以内

※3 定植時の株元散布は1回以内、散布は2回以内 ※a 野菜類(キャベツを除く)登録

※b 野菜類登録 ※c 野菜類(いちご、トマト、ミニトマトを除く)登録

病害虫名	防除時期及び防除法	使用時期-本剤の使用回数	注意事項
べと病	○生育期 ランマンフロアブル 1,000倍 Zボルドー 500倍	前-4 ---	
うどんこ病	○生育期 ダコニール1000 1,000倍 パンチョTF顆粒水和剤 4,000倍 ベルクト水和剤 2,000倍 アミスター20フロアブル 2,000倍 ストロビーフロアブル 3,000倍 アフェットフロアブル 2,000倍	前-3 前-2 前-7 前-4 前-3 前-3	アミスター20フロアブル、ストロビーフロアブルは浸透性展着剤との混用を避ける。
モザイク病 〔・CMV〕 〔・ZYMV〕 〔・WMV〕	○生育期 1 アブラムシ類の防除を徹底する。 2 発病株は早期に抜き取り処分する。		
アブラムシ類 〔・ワタアブラムシ〕 〔・ジャコイモヘナガアブラムシ〕 〔・モモアブラムシ〕	○定植時 スタークル粒剤 2g/株 アルバリン粒剤 植穴土壌混和 ○発生初期 スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 アルバリン顆粒水溶剤 4,000倍 バリアード顆粒水和剤 5,000倍 チェス顆粒水和剤 3,000倍 アディオナ乳剤	定植時-1 前-2 前-3 前-2 7-3	
アザミウマ類 〔・ミナキイロアザミウマ〕 〔・ミカンキイロアザミウマ〕 〔・ネギアザミウマ〕	○定植時 ベストガード粒剤 1g/株 植穴処理土壌混和 ○発生初期 スピノエース顆粒水和剤 10,000倍	定植時-1 前-3	
コナジラミ類 〔・タバココナジラミ〕 〔・オンシツコナジラミ〕	○定植時 スタークル粒剤 2g/株 アルバリン粒剤 植穴土壌混和 ○発生初期 モベントフロアブル 2,000倍 サフオイル乳剤 300倍	定植時-1 前-3 前--	
オオタバコガ	○発生初期 アフーム乳剤 2,000倍 デルフィン顆粒水和剤 1,000倍	3-2 発生初期(収穫前日)--	
ハモグリバエ類 〔・マメハモグリバエ〕 〔・トマトハモグリバエ〕	○発生初期 プレバソンフロアブル5 1,000倍	前-3	
ネコブセンチュウ	○定植前 1 土壌消毒(土壌消毒の頁参照) 2 薬剤処理 ネマトリンエース粒剤 20kg/10a 全面土壌混和	定植前-1	

いちご病害防除農薬一覧①

農薬名	RACコード	有効成分名	本剤の使用回数	当該成分を含む農薬の総使用回数	適用病害名						
					うどんこ病	灰色かび病	じやのめ病	芽枯病	萎黄病	炭疽病	疫病
リドミルゴールドMZ	M3	マンゼブ	3 (育苗期)	6							○
	4	メタラキシルM		5※1							
トップジンM水和剤	1	チオファネートメチル	3	4※2	○				○		
ベンレート水和剤	1	ベノミル	3(育苗期)	9※3					○	○	
			1(仮植前)						○	○	
			1(本圃定植後 収穫30日前)						○	○	
ゲッター水和剤	1	チオファネートメチル	3(収穫開始 21日前)	4※2						○	
	10	ジエトフェンカルブ		6							
プロパティフロアブル	50	ピリオフェノン	3	3	○						
カンタスドライフロアブル	7	ボスカリド	3	3		○					
アフエットフロアブル	7	ペンチオピラド	3	3	○	○					
アミスター20フロアブル	11	アゾキシストロビン	3 (親株育成期)	8※4	○	○				○	
			(苗床)4		○	○				○	
			(本圃)3		○	○				○	
ストロビーフロアブル	11	クレソキシムメチル	3	3	○						
ファンタジスタ顆粒水和剤	11	ピリベンカルブ	3	3		○				○	
シグナムWDG	11	ピラクロストロビン	2	2	○	○				○	
	7	ボスカリド		3							
ランマンフロアブル	21	シアゾファミド	2(育苗期)	4※5							○
			2 (収穫30日前)								○
フルピカフロアブル	9	メパニピリム	3	3	○	○					
フルピカくん煙剤	9	メパニピリム	3	3	○	○					
ショウチノスケフロアブル	U13	フルチアニル	2	2	○	○					
	9	メパニピリム		3							
セイビアーフロアブル20	12	フルジオキソニル	3	3		○				○	
ロブラール500アクア	2	イプロジオン	4	5※6		○					
スミレックス水和剤	2	プロシミドン	3	3		○					

※1 種子への処理は1回以内、育苗期は3回以内、定植時の土壌混和は1回以内

※2 種子への処理は1回以内、は種後は3回以内

※3 種子粉衣は1回以内、苗根部浸漬は1回以内、育苗期の灌注は3回以内、本圃定植後の灌注は1回以内、散布は3回以内

※4 苗床では4回以内、本圃での土壌混和は1回以内、本圃での散布は3回以内

※5 育苗期は2回以内、定植後は2回以内

※6 種子粉衣は1回以内、は種後は4回以内

いちご病害防除農薬一覧②

農薬名	RACコード	有効成分名	本剤の使用回数	当該成分を含む農薬の総使用回数	適用病害名						
					うどんこ病	灰色かび病	じやのめ病	芽枯病	萎黄病	炭疽病	疫病
トリフミン水和剤	3	トリフルミゾール	5	5	○		○				
サンリット水和剤	3	シメコナゾール	3	3	○					○	
レーバスフロアブル	40	マンジプロパミド	2 (親株育成期)	4※7							○
			(苗床)2 (育苗期)								○
			(本圃)2								○
パンチョTF顆粒水和剤	U6	シフルフェナミド	2	2	○						
	3	トリフルミゾール		5							
ハーモメイト水溶剤	NC	炭酸水素ナトリウム	—	—	○※a	○※a					
サンヨール	M1	DBEDC	1(定植前)	6※8	○						
			6		○	○					
イオウフロアブル	M2	硫黄	—	—	○						
硫黄粒剤	M2	硫黄	—	—	○						
ペンコゼブ水和剤	M3	マンゼブ	6 (仮植栽培期)	6						○	
ジマンダイセン水和剤	M3	マンゼブ	6 (仮植栽培期)	6			○			○	
チオノックフロアブル	M3	チウラム	5 (育苗期)	7						○	
アントラコール顆粒水和剤	M3	プロピネブ	6 (仮植栽培期)	6						○	
オーソサイド水和剤80	M4	キャプタン	5	5		○		○		○	
ベルコートフロアブル	M7	イミノクタジナルベシル酸塩	5(育苗期)	10※9	○					○	
			5		○	○				○	
デランフロアブル	M9	ジチアノン	2	2						○	
モレスタン水和剤	M10	キノキサリン系	2	2	○						
ボトキラー水和剤	BM2	バチルスズブチリス	—	—	○※a	○※a					
サンクリスタル乳剤	—	脂肪酸グリセリド	—	—	○※b						
タフパール	—	タラロマイセスフラバス	—	—	○※a					○	

※7 苗床では2回以内、本圃では2回以内 ※8 定植前の苗浸漬は1回以内

※9 育苗期は5回以内、本圃では5回以内 ※10 育苗期は5回以内、生育期は2回以内

※a 野菜類登録 ※b 野菜類(なす、トマト、ミニトマト、しゅんぎくを除く)登録

いちご害虫防除農薬一覧 ①

農 薬 名	R A C コ ー ド	有 効 成分名	本剤の 使 用 回 数	当該成分を 含む農薬の 総使用回数	適 用 害 虫 名									
					ア ブ ラ ム シ 類	ハ ダ ニ 類	コ ナ ジ ラ ミ 類	ア ザ ミ ウ マ 類	ミ カ ン キ イ ロ ア ザ ミ ウ マ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	オ オ タ バ コ ガ	コ ガ ネ ム シ 類 幼 虫	ネ グ サ レ セン チュ ウ	
ネマトリンエース粒剤	1B	ホスチアゼート	1(定植前)	1		○								○
ダイアジノン粒剤5	1B	ダイアジノン	(仮植床)1 (植付時)	2									○	
			(本圃)1 (定植時)									○		
マブリックジェット	3A	フルバリネート	2	2	○	○								
アーデント水和剤	3A	アクリナトリン	4	4	○	○			○					
フォース粒剤	3A	テフルトリン	(仮植床)1 (植付時)	2※1									○	
アドマイヤー1粒剤	4A	イミダクロプリド	1 (育苗期後半)	1	○									
			1(定植時)		○									
モスピラン粒剤	4A	アセタミプリド	1(定植時)	3※2	○		○						○	
			1		○									
モスピラン顆粒水溶剤	4A	アセタミプリド	2	3※2	○		○	○						
ベストガード粒剤	4A	ニテンピラム	1(定植時)	4※3	○									
ベストガード水溶剤	4A	ニテンピラム	3	4※3	○		○							
バリアード顆粒水和剤	4A	チアクロプリド	3	3	○		○							
スピノエース顆粒水和剤	5	スピノサド	2	2				○						
ダブルシューターSE	5	スピノサド	2	2		○	○	○						
		脂肪酸グリセリド	—											
ディアナSC	5	スピネトラム	2	2			○	○		○				
アフーム乳剤	6	エマメクチン安息香酸塩	2	2		○				○	○			
コロマイト水和剤	6	ミルベメクチン	2	2		○								
アグリメック	6	アバメクチン	2 (親株育成期)	2		○								
			2(育苗期)			○								
チェス顆粒水和剤	9B	ピメトロジン	3	3	○		○							
デルフィン顆粒水和剤	11A	BT（生菌）	—	—						○ ※a	○ ※a			
ゼンターリ顆粒水和剤	11A	BT（生菌）	—	—						○ ※a	○ ※a			
コテツフロアブル	13	クロルフェナピル	2	2		○			○	○				
マッチ乳剤	15	ルフェヌロン	4	4				○		○				
カスケード乳剤	15	フルフェノクスロン	3	3				○		○				
マトリックフロアブル	18	クロマフェノジド	3	3						○				

※1 仮植床は1回以内、本圃は1回以内

※2 粒剤株元散布及び土壌混和は合計1回以内、散布、くん煙は合計2回以内

※3 定植時土壌混和は1回以内、株元散布及び散布は合計3回以内 ※a 野菜類登録

いちご害虫防除農薬一覧②

農 薬 名	R A C コード	有 効 成分名	本剤の 使用 回 数	当該成分を 含む農薬の 総使用回数	適 用 害 虫 名								
					ア ブラ ム シ 類	ハ ダ ニ 類	コ ナ ジ ラ ミ 類	ア ザ ミ ウ マ 類	ミ カ ン キ イ ロ ア ザ ミ ウ マ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	オ オ タ バ コ ガ	コ ガ ネ ム シ 類 幼 虫	ネ グ サ レ セン チュ ウ
カネマイトフロアブル	20B	アセキノシル	1	1		○							
マイトコーネフロアブル	20D	ビフェナゼート	2	2		○							
トルネードエースDF	22A	インドキサカルブ	2	2						○	○		
モベントフロアブル	23	スピロテトラマト	1(育苗期後半 ～定植当日)	3※4	○	○	○	○					
			3		○		○	○					
スターマイトフロアブル	25A	シエノピラフェン	2	2		○							
ダニコングフロアブル	25B	ピフルブミド	1	1		○							
フェニックス顆粒水和剤	28	フルベンジアミド	2	2						○	○		
プレバゾンフロアブル5	28	クロラントラニリプロール	2	2						○			
ベネビアOD	28	シアントラニリプロール	3	4※5	○		○	○		○			
ヨーバルフロアブル	28	テトラニリプロール	2	2			○			○	○		
ウララDF	29	フロニカミド	2	2	○		○						
グレーシア乳剤	30	フルキサメタミド	2	2		○		○		○	○		
プレオフロアブル	UN	ピリダリル	4	4						○	○		
ファインセーブフロアブル	UN	フロメトキン	3	3				○					
ダニオーテフロアブル	UN	アシノナピル	2	2		○							
サンクリスタル乳剤	-	脂肪酸グリセリド	—	—	○※b	○※b	○※b						
粘着くん液剤	-	ヒドロキシプロピル デンプン	—	—	○※a	○※a	○※a						
エコピタ液剤	-	還元澱粉糖化物	— (定植前、 10秒～1分間 苗浸漬)	—		○							
			—		○	○	○						
ムシラップ	-	ソルビタン脂肪酸 エステル	—	—	○※a	○※a	○※a						
サフオイル乳剤	-	調合油	—	—	○	○	○						
フーモン	-	ポリグリセリン 脂肪酸エステル	—	—	○※a	○※a	○※a						
スパイデックス*	-	チリカブリダニ	—	—		○※a							
スパイカルEX	-	ミヤコカブリダニ	—	—		○※a							
アフィパール*	-	コレマンアブラバチ	—	—	○※a								

※4 灌注は1回以内 ※5 灌注は1回以内、散布は3回以内

※a 野菜類登録 ※b 野菜類(なす、トマト、ミニトマト、しゅんぎくを除く)登録

* 施設栽培登録

病害虫名	防除時期及び防除法	使用時期-本剤の使用回数	注意事項
うどんこ病	○育苗期 イオウフロアブル 1,000倍 ベルコートフロアブル 1,000倍 アミスター20フロアブル 2,000倍 ○生育期 1 薬剤散布 トリフミン水和剤 5,000倍 パンチョTF顆粒水和剤 2,000倍 サンリット水和剤 4,000倍 モレスタン水和剤 4,000倍 ベルコートフロアブル 4,000倍 アミスター20フロアブル 2,000倍 ストロビーフロアブル 5,000倍 フルピカフロアブル 3,000倍 アフエットフロアブル 2,000倍 ショウチノスケフロアブル 2,000倍 プロパティフロアブル 4,000倍 サンヨール 1,000倍 イオウフロアブル 2,000倍 ハーモメイト水溶剤 1,000倍 サンクリスタル乳剤 600倍 タフパール 4,000倍 2 くん煙剤(くん煙剤の頁参照) 硫黄粒剤 6g/2000㎡ フルピカくん煙剤 50g(1錠)/500㎡	親株床初期―― 育苗期(定植前)――5 (苗床)前――4 前――5 前――2 前――3 前――2 (生育期)前――5 (本圃)前――3 前――3 前――3 前――3 前――2 前――3 前――6 発病前～発病初期―― 前―― 前―― 発病前～発病初期―― ―― 前――3	1 同一系統薬剤の連用を避ける(野菜の灰色かび病、うどんこ病防除薬剤の系統分類の頁参照)。 2 トリフミン水和剤、パンチョTF顆粒水和剤の総使用回数は2剤合わせて5回以内。 3 フルピカフロアブル、フルピカくん煙剤、ショウチノスケフロアブルの総使用回数は3剤合わせて3回以内。 4 モレスタン水和剤はミツバチに影響があるので注意する。 5 アミスター20フロアブル、ストロビーフロアブルは浸透性展着剤との混用は避ける。 6 ストロビーフロアブルはダニ剤との混用は避ける。 7 硫黄粒剤は専用の電気加熱式くん煙器でくん煙する。
灰色かび病	○生育期 1 多湿にならないよう灌水及び換気に注意する。 2 薬剤散布 ロブラール500アクア 1,500倍 スミレックス水和剤 2,000倍 フルピカフロアブル 3,000倍 セイビアーフロアブル20 1,500倍 カンタスドライフロアブル 1,500倍 アフエットフロアブル 2,000倍 ファンタジスタ顆粒水和剤 3,000倍 3 ダクト内投入 ボトキラー水和剤 10g/10a/日	前――4 前――3 前――3 前――3 前――3 前――3 前――3 前――3 発病前～発病初期――	同一系統薬剤の連用を避ける(野菜の灰色かび病、うどんこ病防除薬剤の系統分類の頁参照)。
萎黄病	○植付前 1 前作の栽培終了時に、植え付け株を除去する。 2 土壌消毒(土壌消毒の頁参照) ○育苗期 1 無病株からランナーを採る。 2 育苗圃は連作を避け、無病圃を選ぶ。 3 発病株は早期に抜き取り、適切に処分する。 4 薬剤処理 ベンレート水和剤 500倍 50ml/株 灌注 トップジンM水和剤 500倍 3L/㎡灌注 ○生育期 ベンレート水和剤 500倍 100ml/株 灌注	育苗期――3 仮植時及び仮植栽培期――3 本圃定植後(収穫30日前)――1	

病害虫名	防除時期及び防除法	使用時期-本剤の使用回数	注意事項
じゃのめ病	○育苗期 ジマンダイセン水和剤 600倍 ○生育期 トリフミン水和剤 3,000倍	仮植栽培期 (収穫76日前) - 6 前 - 5	定植前薬剤散布を徹底する。
芽枯病	○発病初期 オーソサイド水和剤80 800倍	14 - 5	
炭疽病	○育苗期 1 降雨は発病を助長するので、雨よけを行う。 2 無病株からランナーを採る。 3 育苗圃は連作を避け、無病圃を選ぶ。 4 発病株は早期に抜き取り、適切に処分する。 5 薬剤散布 デランフロアブル 1,000倍 アントラコール顆粒水和剤 500倍 ペンコゼブ水和剤 600倍 ジマンダイセン水和剤 600倍 チオノックフロアブル 500倍 オーソサイド水和剤80 800倍 ベルクートフロアブル 1,000倍 ゲッター水和剤 1,000倍 タフパール 4,000倍 ○植付前 土壌消毒 (土壌消毒の頁参照) ○生育期 セイビアーフロアブル20 1,000倍 ベルクートフロアブル 2,000倍 サンリット水和剤 2,000倍 ファンタジスタ顆粒水和剤 2,000倍 シグナムWDG 2,000倍 チオノックフロアブル 500倍 タフパール 4,000倍 ○栽培終了後 植え付け株を早期に抜き取り、適切に処分する。	育苗期 - 2 仮植栽培期 - 6 仮植栽培期 (収穫76日前) - 6 育苗期 - 5 14 - 5 育苗期(定植前) - 5 収穫開始21日前 - 3 育苗期～収穫前日 - - 前 - 3 前(生育期) - 5 前 - 3 前 - 3 前 - 2 生育期但し収穫開始 21日前まで - 2 育苗期～収穫前日 - -	デランフロアブルは新葉への葉害に注意する。
疫病	○育苗時期 リドミルゴールドMZ 1,000倍 50ml/株(200～400L/10a) ランマンフロアブル 1,000倍 50ml/株 株元灌注 ○生育期 ランマンフロアブル 1,000倍 100ml/株 株元灌注 レーバスフロアブル 2,000倍	育苗期 - 3 育苗期 - 2 生育期(収穫30日前) - 2 生育期(前日) - 2	

病害虫名	防除時期及び防除法	使用時期-本剤の使用回数	注意事項
アブラムシ類 (・ワタアブラムシ ・チュリップヒゲナガ アブラムシ ・イチゴアブラムシ)	○定植前 苗による持ち込みを防ぐため、育苗床での防除を徹底する。 ○定植時 アドマイヤー1粒剤 0.5g/株 育苗期後半：株元散布 定植時：植穴土壌混和 モスピラン粒剤 0.5g/株 株元散布または植穴土壌混和 ベストガード粒剤 1g/株 植穴処理土壌混和 ○発生初期 1 薬剤散布 モスピラン顆粒水溶剤 4,000倍 ベストガード水溶剤 2,000倍 バリアード顆粒水和剤 4,000倍 チェス顆粒水和剤 5,000倍 アーデント水和剤 1,000倍 ウララDF 4,000倍 サンクリスタル乳剤 300倍 粘着くん液剤 100倍 ムシラップ 500倍 エコピタ液剤 100倍 2 天敵による防除 コレマンアブラバチ剤 アフィパール 1～2瓶/10a (約500～1,000頭/10a)	育苗期後半－1 定植時－1 定植時－1 定植時－1 前－2 前－3 前－3 前－3 前－4 前－2 前－ 前－ 前－ 前－ 発生初期－	1 アドマイヤー1粒剤の育苗期後半または定植時の処理は、どちらか1回。 2 ミツバチを放飼している場合は、ミツバチに対する農薬の影響の頁参照。 3 アブラムシ類防除薬剤の系統分類の頁参照。
ハダニ類 (・ナミハダニ ・カンザワハダニ)	○発生初期 1 初期防除を徹底する。 2 薬剤散布 マイトコーネフロアブル 1,000倍 コロマイト水和剤 2,000倍 アフーム乳剤 2,000倍 スターマイトフロアブル 2,000倍 カネマイトフロアブル 1,500倍 ダニコングフロアブル 3,000倍 アグリメック 1,000倍 グレーシア乳剤 2,000倍 ダニオーテフロアブル 2,000倍 ダブルシューターSE 1,000倍 粘着くん液剤 100倍 エコピタ液剤 100倍 サフオイル乳剤 500倍 ムシラップ 500倍 サンクリスタル乳剤 600倍 フーモン 1,000倍 3 くん煙剤（くん煙剤の頁参照） マブリックジェット 20g/400㎡ 4 天敵による防除 ミヤコカブリダニ剤 スパイカルEX 100～1,250ml/10a (約2,000～25,000頭) チリカブリダニ剤 スパイデックス 100～300ml/10a (約2,000～6,000頭)	前－2 前－2 前－2 前－2 前－1 前－1 育苗期－2 前－2 前－2 前－2 前－ 前－ 前－ 前－ 前－ 前－ 前－ 前－ 前－2 発生初期－ 発生初期－	1 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、異なる系統の薬剤を輪番で散布する。（ハダニ類防除薬剤の系統と分類の頁、ハダニ類を対象とする殺ダニ剤の系統と特性の頁参照） 2 カネマイトフロアブルは新葉の葉裏に褐変症状の薬害を生じることがある。 3 ミヤコカブリダニ、チリカブリダニの順でスケジュール放飼による防除を行う。

病害虫名	防除時期及び防除法	使用時期-本剤の使用回数	注意事項
コナジラミ類 (・オシツコジラミ ・タハコナジラミ)	○発生初期 モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍 バリアード顆粒水和剤 2,000倍 セス顆粒水和剤 5,000倍 ウララDF 2,000倍 モベントフロアブル 2,000倍 エコピタ液剤 200倍	前-2 前-3 前-3 前-2 前-3 前-1	コナジラミ類防除薬剤の系統分類の頁参照。
アザミウマ類 (・ミカンキロアザミウマ ・ヒラズハナアザミウマ ・チャノキアザミウマ)	○発生初期 モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍 スピノエース顆粒水和剤 5,000倍 ディアナSC 5,000倍 ファインセーフフロアブル 2,000倍 ベネビアOD 2,000倍 カスケード乳剤 4,000倍 マッチ乳剤 2,000倍	前-2 前-2 前-2 前-3 前-3 前-3 前-4	
ミカンキイロ アザミウマ	○発生初期 アーデント水和剤 1,000倍 コテツフロアブル 2,000倍	前-4 前-2	
ハスモンヨトウ	○発生初期 アフアーム乳剤 2,000倍 フェニックス顆粒水和剤 4,000倍 ブレバソソフロアブル5 2,000倍 ヨーバルフロアブル 5,000倍 トルネードエースDF 2,000倍 マトリックフロアブル 2,000倍 ブレオフロアブル 1,000倍 マッチ乳剤 3,000倍 ゼンターリ顆粒水和剤 1,000倍	前-2 前-2 前-2 前-2 前-2 前-3 前-4 前-4 発生初期(収穫前日)-1	
オオタバコガ	○発生初期 アフアーム乳剤 2,000倍 ブレオフロアブル 1,000倍 フェニックス顆粒水和剤 4,000倍	前-2 前-4 前-2	
コガネムシ類 幼虫	○植付時(仮植床) フォース粒剤 6kg/10a 全面土壌混和 ○定植時 ダイアジノン粒剤5 4kg/10a 土壌混和	植付時(仮植床)-1 定植時(本圃)-1	
ネグサレ センチュウ	○植付前 1 土壌消毒(土壌消毒の頁参照) 2 薬剤処理 ネマトリンエース粒剤 20kg/10a 全面土壌混和	定植前-1	
ナメクジ類	○発生初期 ナメクジ類登録農薬の頁参照		

※ミツバチ及びマルハナバチに対する農薬の影響については、ミツバチ・マルハナバチに対する農薬の影響の頁、天敵等への農薬の影響の目安の頁参照

レタス病害防除農薬一覧

農薬名	RACコード	有効成分名	本剤の使用回数	当該成分を含む農薬の総使用回数	適用病害名					
					すそ枯病	菌核病	軟腐病	斑点細菌病	腐敗病	灰色かび病
スターナ水和剤	31	オキシリニック酸	2	2			○	○	○	
トップジンM水和剤	1	チオファネートメチル	1 (灌注)	4※1		○				
			2		○	○				○
ベンレート水和剤	1	ベノミル	4	5※2	○	○				○
ゲッター水和剤	10	ジエトフェンカルブ	2	5						
	1	チオファネートメチル		4※1		○				○
パレード20フロアブル	7	ピラジフルミド	3	3 (灌注1回以内)	○	○				○
			1※3		○	○				
アミスター20フロアブル	11	アゾキシストロビン	4	4 (土壌灌注2回以内)	○	○				○
ロブラール水和剤	2	イプロジオン	3	4※4	○	○				○
スミレックス水和剤	2	プロシミドン	5	5		○				○
バリダシン液剤5	U18	バリダマイシン	3	3	○		○		○	
Zボルドー	M1	塩基性硫酸銅	—	—			○ ※a	○ ※a	○	
カッパーシン水和剤 カスミンボルドー	24	カスガマイシン	4	4				○	○	
	M1	塩基性塩化銅		—						
ダコニール1000	M5	T P N	3	5※5	○					○
バイオキパー水和剤	—	非病原性エルビニア カロトボーラ	—	—			○ ※b			

※1 種子処理は1回以内、灌注は1回以内、散布は2回以内

※2 種子粉衣は1回以内、は種後は4回以内

※3 育苗期後半～定植当日

※4 種子粉衣は1回以内、は種後は3回以内

※5 土壌灌注は2回以内、散布は3回以内

※a 野菜類(キャベツを除く)登録 ※b 野菜類(かぼちゃ、ズッキーニを除く)登録

レタス害虫防除農薬一覧

農薬名	RACコード	有効成分名	本剤の使用回数	当該成分を含む農薬の総使用回数	適用害虫名					
					アブラムシ類	ヨトウムシ	ハスモンヨトウ	オオタバコガ	ナモグリバエ	ネキリムシ類
カルホス微粒剤F	1B	イソキサチオン	2(は種時又は植付時)	2						○
ネキリエースK	1B	イソキサチオン	2※1	2						○
アディオン乳剤	3A	ペルメトリン	5	5	○	○				
フォース粒剤	3A	テフルトリン	1(定植前)	1						○
モスピラン顆粒水溶剤	4A	アセタミプリド	3	4※2	○				○	
ベストガード水溶剤	4A	ニテンピラム	3	4※3	○					
スタークル顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤	4A	ジノテフラン	2	4※4	○					
			1(定植前日～定植時)		○		○		○	
アドマイヤー1粒剤	4A	イミダクロプリド	1(育苗期後半)	3※5	○					
トランスフォームフロアブル	4C	スルホキサフロル	3	3	○					
スピノエース顆粒水和剤	5	スピノサド	1(定植前)	4※6					○※a	
			3			○		○		
ディアナSC	5	スピネトラム	2	2			○	○	○※a	
アフーム乳剤	6	エマメクチン安息香酸塩	3	3			○	○	○	
アニキ乳剤	6	レピメクチン	3	3			○	○		
ゼンターリ顆粒水和剤	11A	B T (生菌)	—	—			○※b	○※b		
デルフィン顆粒水和剤	11A	B T (生菌)	—	—			○※c	○※c		
フェニックス顆粒水和剤	28	フルベンジアミド	2	3※7		○	○	○		
プレバソンフロアブル5	28	クロラントラニリプール	1(育苗期後半～定植当日)	4※8		○	○	○	○※a	○
			3			○	○	○	○※a	
ヨーバルフロアブル	28	テトラニリプロール	1(育苗期後半～定植当日)	4※9	○	○	○	○	○※a	
			3		○	○	○	○	○※a	
ウララDF	29	フロニカミド	2	2	○					
グレーシア乳剤	30	フルキサメタミド	2	2		○	○	○	○	
プレオフロアブル	UN	ピリダリル	2	2			○	○	○	

※1 は種時又は定植時～生育初期 ※2 粒剤の株元散布は1回以内、散布は3回以内

※3 定植時までの処理は1回以内、定植後は3回以内 ※4 は種前の培土混和は1回以内、育苗期株元散布、定植時の土壌混和及び育苗トレイへの灌注は合計1回以内、散布は2回以内

※5 定植時までの処理は1回以内、定植後の処理は2回以内 ※6 定植前は1回以内、本圃では3回以内

※7 灌注は1回以内、散布及び無人航空機散布は合計2回以内

※8 定植時までの処理は1回以内、定植後の処理は3回以内

※9 灌注は1回以内、散布及び無人航空機散布は合計3回以内 ※a ハモグリバエ類適用

※b 野菜類(キャベツ、はくさいを除く)登録 ※c 野菜類登録

病害虫名	防除時期及び防除法	使用時期-本剤の使用回数	注意事項
すそ枯病	○育苗期 排水対策を行い、多湿にならないようにする。 ○生育期 アミスター20フロアブル 2,000倍 ロブラール水和剤 1,000倍 バリダシン液剤5 800倍 ダコニール1000 1,000倍	7-4 14-3 前-3 14-3	アミスター20フロアブルは浸透性展着剤との混用を避ける。
菌核病	○植付前 1 アブラナ科野菜の後作は避ける。 2 マルチ栽培を行う。 ○育苗期 パレード20フロアブル 100倍 セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊 (約30×60cm、使用土壌約1.5～4L) 当り0.5L灌注 ○生育期 ベンレート水和剤 3,000倍 トップジンM水和剤 2,000倍 ゲッター水和剤 1,500倍 ロブラール水和剤 1,000倍 スミレックス水和剤 2,000倍 アミスター20フロアブル 2,000倍	育苗期後半～定植当日-1 14-4 7-2 7-2 14-3 7-5 7-4	1 ゲッター水和剤とトップジンM水和剤の総使用回数は合わせて2回以内。 2 アミスター20フロアブルは浸透性展着剤との混用を避ける。
軟腐病	○結球開始直前～生育期 Zボルドー 1,000倍 バリダシン液剤5 800倍 スターナ水和剤 2,000倍 バイオキパー水和剤 2,000倍	--- 前-3 7-2 発病前～発病初期---	Zボルドーはクレフノン200倍を加用する。
斑点細菌病	○結球開始直前～生育期 Zボルドー 500倍 カッパーシン水和剤 1,000倍 カスミンボルドー 1,000倍 スターナ水和剤 2,000倍	--- 7-4 7-2	Zボルドーはクレフノン200倍を加用する。
腐敗病	○結球開始直前～生育期 Zボルドー 800倍 バリダシン液剤5 800倍 カッパーシン水和剤 1,000倍 カスミンボルドー 1,000倍 スターナ水和剤 2,000倍	--- 前-3 7-4 7-2	Zボルドーはクレフノン200倍を加用する。
灰色かび病	○生育期 ロブラール水和剤 1,500倍 スミレックス水和剤 2,000倍 ゲッター水和剤 1,500倍 アミスター20フロアブル 2,000倍	14-3 7-5 7-2 7-4	アミスター20フロアブルは浸透性展着剤との混用を避ける。
アブラムシ類 (モモアブラムシ・ジャガイモヒゲナガアブラムシ・チュリップヒゲナガアブラムシ)	○育苗期 アドマイヤー1粒剤 0.5g/株 株元散布 ○発生初期 モスピラン顆粒水溶剤 4,000倍 スタークル顆粒水溶剤 3,000倍 アルバリン顆粒水溶剤 3,000倍 ベストガード水溶剤 2,000倍 ウララDF 2,000倍 トランスフォームフロアブル 2,000倍	育苗期後半-1 前-3 3-2 3-3 前-2 前-3	アブラムシ類防除薬剤の系統分類の頁参照。

病害虫名	防除時期及び防除法	使用時期-本剤の使用回数	注意事項
ヨトウムシ	○育苗期 プレバソンフロアブル5 100倍 0.5L/畝(成型育苗トレイ1箱または $\text{ハ}^{\circ}\text{-ハ}^{\circ}\text{-ホ}^{\circ}$ ユ1冊 (約30×60cm、使用土壌約1.5～4L) 灌注 ○発生初期 アディオン乳剤 3,000倍 スピノエース顆粒水和剤 5,000倍 フェニックス顆粒水和剤 4,000倍 プレバソンフロアブル5 2,000倍 グレーシア乳剤 3,000倍	育苗期後半～定植当日 - 1 3 - 5 3 - 3 前 - 2 前 - 3 3 - 2	
ハスモンヨトウ	○育苗期 プレバソンフロアブル5 100倍 0.5L/畝(成型育苗トレイ1箱または $\text{ハ}^{\circ}\text{-ハ}^{\circ}\text{-ホ}^{\circ}$ ユ1冊 (約30×60cm、使用土壌約1.5～4L) 灌注 ○発生初期 アファーム乳剤 2,000倍 アニキ乳剤 2,000倍 フェニックス顆粒水和剤 4,000倍 プレバソンフロアブル5 2,000倍 プレオフロアブル 1,000倍 グレーシア乳剤 3,000倍 ゼンターリ顆粒水和剤 1,000倍 デルフィン顆粒水和剤 1,000倍	育苗期後半～定植当日 - 1 3 - 3 3 - 3 前 - 2 前 - 3 7 - 2 3 - 2 発生初期(収穫前日) - - 発生初期(収穫前日) - -	
オオタバコガ	○育苗期 プレバソンフロアブル5 100倍 0.5L/畝(成型育苗トレイ1箱または $\text{ハ}^{\circ}\text{-ハ}^{\circ}\text{-ホ}^{\circ}$ ユ1冊 (約30×60cm、使用土壌約1.5～4L) 灌注 ○発生初期 アファーム乳剤 2,000倍 アニキ乳剤 2,000倍 スピノエース顆粒水和剤 5,000倍 ディアナSC 5,000倍 フェニックス顆粒水和剤 4,000倍 プレバソンフロアブル5 2,000倍 ヨーバルフロアブル 5,000倍 グレーシア乳剤 3,000倍 プレオフロアブル 1,000倍 デルフィン顆粒水和剤 1,000倍	育苗期後半～定植当日 - 1 3 - 3 3 - 3 3 - 3 前 - 2 前 - 2 前 - 3 前 - 3 3 - 2 7 - 2 発生初期(収穫前日) - -	
ナモグリバエ	○発生初期 アファーム乳剤 2,000倍 プレバソンフロアブル5 2,000倍 プレオフロアブル 1,000倍	3 - 3 前 - 3 7 - 2	
ネキリムシ類	○は種時、定植時、生育初期 カルホス微粒剤F 6kg/10a 土壌表面散布土壌混和处理 フォース粒剤 9kg/10a 全面土壌混和 ネキリエースK 3kg/10a 土壌表面株元処理	は種時又は植付時 - 2 定植前 - 1 は種時又は定植時 ～生育初期 (収穫21日前) - 2	カルホス微粒剤Fとネ キリエースKの総使用回 数は合わせて2回以内。
ナメクジ類	○発生初期 ナメクジ類登録農薬の頁参照		

キャベツ病害防除農薬一覧①

農薬名	RACコード	有効成分名	本剤の使用回数	当該成分を含む農薬の総使用回数	適用病害名						
					べと病	菌核病	黒腐病	軟腐病	根こぶ病	ピシウム腐敗病	株腐病
スターナ水和剤	31	オキシリニック酸	3	3				○			
トップジンM水和剤	1	チオファネートメチル	2	3※1		○					○
ベンレート水和剤	1	ベノミル	6	7※2		○					
アフェットフロアブル	7	ペンチオピラド	3	3		○					○
カンタスドライフロアブル	7	ボスカリド	2	2		○					○
ネクスターフロアブル	7	イソピラザム	3	3		○					○
アミスター20フロアブル	11	アゾキシストロビン	4	4		○					○
シグナムWDG	11	ピラクロストロビン	2	2	○	○					○
	7	ボスカリド		2							
ライメイフロアブル	21	アミスルブロム	4	8※3	○						
ランマンフロアブル	21	シアゾファミド	4 (収穫3日前)	6※4	○					○	
			1 (収穫14日前)						○		
			1 (定植前日～当日)						○		
フロンサイド粉剤	29	フルアジナム	2(は種又は定植前)※5	3※6		○			○		
アグレプト水和剤	25	ストレプトマイシン硫酸塩	2	2			○				
アグリマイシン-100	41	オキシテトラサイクリン	2	2			○				
	25	ストレプトマイシン硫酸塩		2							
セイビアーフロアブル20	12	フルジオキシニル	3	4※7		○					○
ロブラール水和剤	2	イプロジオン	4	5※8		○					○
スミレックス水和剤	2	プロシミドン	4	4		○					
リゾレックス水和剤	14	トルクロホスメチル	3	3							○
オンリーワンフロアブル	3	テブコナゾール	3	3		○					
フェスティバル水和剤	40	ジメトモルフ	3	3	○						
オリゼメート粒剤	P2	プロベナゾール	1(定植時)	1			○				

- ※1 種子処理は1回以内、は種後は2回以内 ※2 種子粉衣は1回以内、は種後は6回以内
 ※3 苗床での土壌混和は2回以内、灌注は1回以内、本圃での土壌混和は2回以内、散布は4回以内
 ※4 育苗期の灌注は1回以内、本圃での株元灌注は1回以内、散布は4回以内
 ※5 苗床では1回以内、本圃では1回以内
 ※6 苗床では1回以内、本圃での土壌混和は1回以内、土壌散布は1回以内
 ※7 種子への処理は1回以内、散布は3回以内 ※8 種子粉衣は1回以内、は種後は4回以内

キャベツ病害防除農薬一覧②

農薬名	RACコード	有効成分名	本剤の使用回数	当該成分を含む農薬の総使用回数	適用病害名						
					べと病	菌核病	黒腐病	軟腐病	根こぶ病	ピシウム腐敗病	株腐病
ネビジン粉剤	36	フルスルファミド	2(定植前)	2		○					
			2(は種又は定植前)						○		
ピシロックフロアブル	U17	ピカルブトラゾクス	3	3	○					○	
バリダシン液剤5	U18	バリダマイシン	5	5			○	○			○
Zボルドー	M1	塩基性硫酸銅	—	—	○		○	○			
カッパーシン水和剤 カスミンボルドー	24	カスガマイシン	4	4			○	○			
	M1	塩基性塩化銅		—							
クプロシールド	M1	塩基性硫酸銅	—	—	○ ※a		○ ※b	○ ※a			
ペンコゼブ水和剤 ジマンダイセン水和剤	M3	マンゼブ	3	3	○						
フォリオゴールド	4	メタラキシルM	2	4※9	○					○	
	M5	TPN		3※10							
ダコニール1000	M5	TPN	2	3※10	○						
バイオキーパー水和剤	—	非病原性エルビニア カロトボーラ	—	—				○ ※c			

※9 種子処理は1回以内、は種後は3回以内

※10 は種又は定植前の土壌混和は1回以内、散布、無人航空機及びエアゾル剤の噴射は合計2回以内

※a 野菜類登録 ※b 結球あぶらな科葉菜類登録

※c 野菜類（かぼちゃ、ズッキーニを除く）登録

キャベツ害虫防除農薬一覧①

農薬名	RACコード	有効成分名	本剤の使用回数	当該成分を含む農薬の総使用回数	適用害虫名							
					コナガ	ヨトウムシ	オオタバコガ・ウワバ類	ハイマダラノメイガ	アオムシ	アブラムシ類	アザミウマ類	ネキリムシ類
デナポン5%ベイト	1A	NAC	3	3								○
カルホス微粒剤F	1B	イソキサチオン	1(は種時又は植付時)	1								○
ネキリエースK	1B	イソキサチオン	1(は種時又は定植時)	1								○
ガードベイトA	3A	ペルメトリン	5	5※1								○
フォース粒剤	3A	テフルトリン	1	1								○
アドマイヤーフロアブル	4A	イミダクロプリド	2	3※2						○		
モスピラン粒剤	4A	アセタミプリド	1(定植前日～定植当日)	6※3	○			○	○	○		
			1(定植時)		○				○	○		
モスピラン顆粒水溶剤	4A	アセタミプリド	5	6※3	○				○	○	○	
アクタラ顆粒水溶剤	4A	チアメトキサム	1(育苗期後半)	4※4						○		
			3							○		
スタークル粒剤 アルバリン粒剤	4A	ジノテフラン	1(育苗期)	3※5						○		
			1(定植時)		○			○	○	○		
ダントツ粒剤	4A	クロチアニジン	1(は種時)	3※6				○		○	※a	
			1(地床育苗期)							○	※a	
			1(育苗期後半)		○			○	○	○	※a	○
			1(定植時)		○			○	○	○		
ダントツ水溶剤	4A	クロチアニジン	2	3※6	○				○	○	○	
トランスフォームフロアブル	4C	スルホキサフロル	3	3						○	※a	
フィールドマストフロアブル	4E	ジクロロメゾチア	2	2	○		○※b	○	○			
スピノエース顆粒水和剤	5	スピノサド	3	4※7	○	○	○※c	○	○		○	
ディアナSC	5	スピネトラム	1(育苗期後半)	3※6							○	
			2		○	○	○	○	○		○	

※1 株元灌注は2回以内 ※2 定植時までの処理は1回以内、定植後の処理は2回以内

※3 粒剤の定植時までの処理は1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計5回以内

※4 定植時までの処理は1回以内、定植後の散布は3回以内

※5 育苗期の株元散布、定植時の土壌混和及び灌注は合計1回以内、散布及び無人航空機散布は合計2回以内

※6 定植時までの処理は1回以内、定植後の散布は2回以内

※7 定植前は1回以内、本圃では3回以内

※a ネギアザミウマ適用 ※b ウワバ類適用 ※c タマナギンウワバ適用

キャベツ害虫防除農薬一覧②

農薬名	RACコード	有効成分名	本剤の使用回数	当該成分を含む農薬の総使用回数	適用害虫名							
					コナガ	ヨトウムシ	オオタバコガ・ウワバ類	ハイマダラノメイガ	アオムシ	アブラムシ類	アザミウマ類	ネキリムシ類
アニキ乳剤	6	レピメクチン	3	3	○		○	○	○			
アフーム乳剤	6	エマメクチン安息香酸塩	3	3	○	○	※b	○	○			
コルト顆粒水和剤	9B	ピリフルキナゾン	3	3						○	※a	
ゼンターリ顆粒水和剤	11A	B T (生菌)	—	—	○	○	※c		○		○	※a
エスマルクDF	11A	B T (生菌)	—	—	※d	※d	※c, d	○	※d		○	※a
エコマスターBT	11A	B T (生菌)	—	—	※d	※d	※c, d	○	※d		○	※a
コテツフロアブル	13	クロルフェナピル	2	2	○	○	※e	○	○			
パダンSG水溶剤	14	カルタップ	4	4	○			○	○	○		
リーフガード顆粒水和剤	14	チオシクラム	3	3	○			○	○	○	○	
マッチ乳剤	15	ルフェヌロン	3	3	○	○		○	○			
カスケード乳剤	15	フルフェノクスロン	2	2	○	○	※e	○	○		○	
マトリックフロアブル	18	クロマフェノジド	4	4				○				
ハチハチ乳剤	21A	トルフェンピラド	2	2	○			○	○	○	○	
アクセルフロアブル	22B	メタフルミゾン	3	3	○	○	○	○	○			
トルネードエースDF	22A	インドキサカルブ	2	2	○	○	※f	○	○			
フェニックス顆粒水和剤	28	フルベンジアミド	3	4※8	○	○	○	○	○			
プレバソンフロアブル5	28	クロラントラニリプロール	1 (育苗期後半～定植当日)	4※9	○	○	※f	○	○			○
			3		○	○	○	○	○			
ベネビアOD	28	シアントラニリプロール	3	4※9	○	○	○	○	○	○	○	
プリロッソ粒剤オメガ	28	シアントラニリプロール	1 (育苗期後半～定植当日)	4※9	○			○	○		○	
			1 (育苗期後半～定植時)		○			○	○		○	
			1 (育苗期)					○				
ヨーバルフロアブル	28	テトラニリプロール	1 (育苗期後半～定植当日)	4※8	○			○	○	○	※a	○
			3		○	○	○	○	○	○	○	
ウララDF	29	フロニカミド	2	2						○		
グレーシア乳剤	30	フルキサメタミド	2	2	○	○	○	○	○		○	
プロフレアSC	30	プロフラニリド	3	3	○	○	○	○	○			
プレオフロアブル	UN	ピリダリル	2	2	○	○	○	○	○		○	※a
ファインセーブフロアブル	UN	フロメトキン	2	2	○				○		○	

※4 定植時までの処理は1回以内、定植後の散布は3回以内

※8 灌注は1回以内、散布及び無人航空機散布は合計3回以内

※9 定植時までの処理は1回以内、定植後の処理は3回以内

※a ネギアザミウマ適用 ※b タマナギンウワバ適用 ※c オオタバコガ適用

※d 野菜類登録 ※e オオタバコガ、タマナギンウワバ適用 ※f ウワバ類適用

病害虫名	防除時期及び防除法	使用時期-本剤の使用回数	注意事項
べと病	○生育期 1 発病しやすい品種は防除を徹底する。 2 薬剤散布 Zボルドー 500倍 ペンコゼブ水和剤 600倍 ジマンダイセン水和剤 600倍 ダコニール1000 1,000倍 フォリオゴールド 1,000倍 ライメイフロアブル 3,000倍 ランマンフロアブル 2,000倍 シグナムWDG 2,000倍 ピシロックフロアブル 1,000倍 フェスティバル水和剤 2,000倍	--- 30-3 30-3 14-2 14-2 7-4 3-4 7-2 前-3 前-3	ダコニール1000とフォリオゴールドの総使用回数は合わせて2回以内。
菌核病	○植付前 前年発病畑は、反転耕を行う。 ○生育期 ベンレート水和剤 2,000倍 トップジンM水和剤 1,500倍 ロブラール水和剤 1,000倍 スミレックス水和剤 3,000倍 セイビアーフロアブル20 1,000倍 アミスター20フロアブル 2,000倍 カンタスドライフロアブル 1,500倍 アフエットフロアブル 2,000倍 オンリーワンフロアブル 2,000倍	7-6 3-2 7-4 14-4 前-3 7-4 7-2 前-3 前-3	アミスター20フロアブルは浸透性展着剤との混用を避ける。
黒腐病	○は種前 耐病性品種を用いる。 ○定植時 オリゼメート粒剤 6kg/10a 全面土壌混和または作条土壌混和 ○生育期 1 予防散布を徹底する。 2 発病しやすい品種は防除を徹底する。 3 薬剤散布 Zボルドー 1,000倍 カッパーシン水和剤 1,000倍 カスミンボルドー アグレプト水和剤 2,000倍 アグリマイシン-100 2,000倍 バリダシン液剤5 800倍	定植時-1 --- 7-4 14-2 14-2 7-5	
軟腐病	○は種前 耐病性品種を用いる。 ○生育期 1 予防散布を徹底する。 2 発病しやすい品種は防除を徹底する。 3 薬剤散布 Zボルドー 1,000倍 クプロシールド 1,500倍 カッパーシン水和剤 1,000倍 カスミンボルドー スターナ水和剤 1,000倍 バリダシン液剤5 800倍 バイオキパー水和剤 2,000倍	--- 発病前～発病初期-- 7-4 7-3 7-5 発病前～発病初期--	
萎黄病	○は種前または定植前 1 耐病性品種を用いる。 2 連作を避ける。 3 土壌消毒（土壌消毒の頁参照）		

病害虫名	防除時期及び防除法	使用時期-本剤の使用回数	注意事項
根こぶ病	○は種または定植前 1 イネ科作物との輪作を行う。 2 土壌消毒（土壌消毒の頁参照） 3 薬剤処理 フロンサイド粉剤 全面土壌混和：30kg/10a 作条土壌混和：15kg/10a ネビジン粉剤 20kg/10a 全面土壌混和または作条土壌混和	は種又は定植前－2 （苗床では1回以内、 本圃では1回以内） は種又は定植前－2	
ピシウム腐敗病	○定植前 連作を避ける。 ○生育期 フォリオゴールド 1,000倍 ピシロックフロアブル 1,000倍	14－2 前－3	
株腐病	○生育期 リゾレックス水和剤 1,000倍 バリダシン液剤5 800倍 アミスター20フロアブル 2,000倍 セイビアーフロアブル20 1,000倍 カンタスドライフロアブル 1,500倍 アフエットフロアブル 2,000倍 ネクスターフロアブル 1,000倍	7－3 7－5 7－4 前－3 7－2 前－3 7－3	アミスター20フロアブルは浸透性展着剤との混用を避ける。
コナガ	○育苗期～定植時 モスピラン粒剤 株元散布：0.5g/株 植穴土壌混和：1g/株 プレバソンフロアブル5 100倍 0.5L/㎡成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊 （約30×60cm、使用土壌約1.5～4L）灌注 500倍 苗地床2L/㎡灌注 ○発生初期 アフーム乳剤 2,000倍 アニキ乳剤 2,000倍 トルネードエースDF 2,000倍 アクセルフロアブル 1,000倍 スピノエース顆粒水和剤 5,000倍 ディアナSC 5,000倍 プレオフロアブル 1,000倍 パダシグ水溶剤 1,500倍 リーフガード顆粒水和剤 1,500倍 ベネビアOD 4,000倍 ヨーバルフロアブル 5,000倍 マッチ乳剤 3,000倍 プロフレアSC 4,000倍 フィールドマストフロアブル 4,000倍 エスマルクDF 2,000倍 エコマスターBT 2,000倍 ゼンターリ顆粒水和剤 2,000倍	定植前日～定植当日 定植時－1 育苗期後半～ 前－3 3－3 7－2 前－3 3－3 前－2 7－2 14－4 7－3 前－3 前－3 7－3 前－3 前－2 発生初期（収穫前日）―― 発生初期（収穫前日）―― 発生初期（収穫前日）――	1 コナガは薬剤抵抗性が発達しやすいので、系統の異なる薬剤を組み合わせて用いる（コナガ防除薬剤の系統分類の頁参照）。 2 水和剤は展着剤を加用する。
ヨトウムシ	○発生初期 アフーム乳剤 2,000倍 トルネードエースDF 2,000倍 スピノエース顆粒水和剤 5,000倍 プレオフロアブル 1,000倍 フェニックス顆粒水和剤 4,000倍 マッチ乳剤 3,000倍 カスケード乳剤 4,000倍 ゼンターリ顆粒水和剤 2,000倍 エスマルクDF 1,000倍	前－3 7－2 3－3 7－2 前－3 7－3 7－2 発生初期（収穫前日）―― 発生初期（収穫前日）――	

キャベツ

病害虫名	防除時期及び防除法	使用時期-本剤の使用回数	注意事項
オオタバコガ ウワバ類	○発生初期 ディアナSC 5,000倍 アニキ乳剤 2,000倍 フェニックス顆粒水和剤 4,000倍 ベネビアOD 4,000倍 グレーシア乳剤 3,000倍 プレオフロアブル 1,000倍 エスマルクDF 1,000倍	前-2 3-3 前-3 前-3 7-2 7-2 発生初期(収穫前日)-	エスマルクDFはオオタバコガ適用登録。
ハイマダラ ノメイガ	○育苗期～定植時 モスピラン粒剤 株元散布：0.5g/株 プリロッソ粒剤オメガ 株元散布：1g/株 ○発生初期 マトリックフロアブル 2,000倍 カスケード乳剤 4,000倍 ハチハチ乳剤 2,000倍 フェニックス顆粒水和剤 4,000倍	定植前日～定植当日-1 育苗期後半～定植時-1 7-4 7-2 14-2 前-3	
アオムシ	○発生初期 フェニックス顆粒水和剤 4,000倍 コテツフロアブル 2,000倍	前-3 前-2	
アブラムシ類 (・モアアラムシ ・ニセダアイコン アラムシ ・ダアイコンアラムシ)	○育苗時～定植時 モスピラン粒剤 株元散布：0.5g/株 株元散布または植穴土壌混和：1g/株 スタークル粒剤 2g/株 アルバリン粒剤 定植時：植穴土壌混和 育苗期：株元散布 ○発生初期 アドマイヤーフロアブル 4,000倍 モスピラン顆粒水溶剤 4,000倍 アクタラ顆粒水溶剤 3,000倍 ダントツ水溶剤 4,000倍 ハチハチ乳剤 2,000倍 ウララDF 3,000倍 トランスフォームフロアブル 2,000倍	定植前日～定植当日-1 定植時-1 定植時-1 育苗期-1 7-2 7-5 3-3 3-2 14-2 前-2 前-3	1 モスピラン粒剤の定植前日～定植当日または定植時の処理はどちらか1回。 2 スタークル粒剤及びアルバリン粒剤の定植時または育苗期の処理はどちらか1回。 3 アブラムシ類防除薬剤の系統分類の頁参照。
アザミウマ類 (・キアザミウマ)	○育苗期 ダントツ粒剤 株元処理：0.5g/株 ○発生初期 スピノエース顆粒水和剤 5,000倍 ディアナSC 5,000倍 ハチハチ乳剤 1,000倍 モスピラン顆粒水溶剤 4,000倍 ファインセーブフロアブル 2,000倍 コルト顆粒水和剤 3,000倍	育苗期後半-1 3-3 前-2 14-2 7-5 3-2 前-3	ダントツ粒剤とコルト顆粒水和剤はネギアザミウマ適用。
ネキリムシ類	○は種時～生育期 ネキリエースK 3kg/10a 土壌表面株元処理 カルホス微粒剤F 6kg/10a 土壌表面散布土壌混和处理 フォース粒剤 全面土壌混和：4kg/10a ガードベイトA 株元散布：3kg/10a デナボン5%ベイト 株元散布：3kg/10a	は種時又は定植時-1 は種時又は植付時-1 定植時-1 生育初期-5 14-3	ネキリエースKとカルホス微粒剤Fの総使用回数は合わせて1回以内。
ナメクジ類	○発生初期 ナメクジ類登録農薬の頁参照		

ブロッコリー病害防除農薬一覧

農薬名	RACコード	有効成分名	本剤の使用回数	当該成分を含む農薬の総使用回数	適用病害名				
					黒腐病	軟腐病	根こぶ病	べと病	黒すす病
フォリオゴールド	4	メタラキシルM	2	4※1				○	
	M5	T P N		3※2					
スターナ水和剤	31	オキシリニック酸	2	2		○			
アフェットフロアブル	7	ペンチオピラド	3	3					○※a
パレード20フロアブル	7	ピラジフルミド	3	3					○※a
アミスター20フロアブル	11	アゾキシストロビン	3	3				○	○
ファンタジスタ顆粒水和剤	11	ピリベンカルブ	3	3					○※a
ライメイフロアブル	21	アミスルブロム	4	7※3				○	
ランマンフロアブル	21	シアゾファミド	1(定植前日～当日)	5※4			○		
			1				○		
			3					○	
フロンサイド粉剤	29	フルアジナム	1(は種又は定植前)	1			○		
ネビジン粉剤	36	フルスルファミド	1(は種又は定植前)	1			○		
ピシロックフロアブル	U17	ピカルブトラゾクス	2	2				○※a	
バリダシン液剤5	U18	バリダシン	3	3	○	○			
Z ボルドー	M1	塩基性硫酸銅	—	—	○※b	○※b		○※b	
カッパーシン水和剤 カスミンボルドー	24	カスガマイシン	4	4	○				
	M1	塩基性塩化銅		—					
ダコニール1000	M5	T P N	1(定植時)	3※2			○		
			2(出蕾前、 収穫21日前)					○	

※1 種子への処理は1回以内、土壌混和は1回以内、散布は2回以内

※2 土壌灌注は1回以内、散布及び無人航空機散布は合計2回以内

※3 土壌混和は2回以内、灌注は1回以内、散布は4回以内

※4 育苗期の灌注は1回以内、本圃での株元灌注は1回以内、散布は3回以内

※a はなやさい類登録 ※b 野菜類（キャベツを除く）登録

ブ ロ ッ コ リ ー 害 虫 防 除 農 薬 一 覧

農 薬 名	R A C コ ー ド	有 効 成分名	本剤の 使 用 回 数	当該成分を 含む農薬の 総使用回数	適 用 害 虫 名						
					ア ブ ラ ム シ 類	コ ナ ガ	ア オ ム シ	ヨ ト ウ ム シ	オ オ タ バ コ ガ	ウ ワ バ 類	ネ キ リ ム シ 類
ダイアジノン粒剤5	1B	ダイアジノン	1(定植時)	2※1							○
			2(は種又は定植時)								○
ジェイエース粒剤	1B	アセフェート	1(定植時)	1				○			
オルトラン粒剤	1B	アセフェート	1(定植時)	1			○	○			○
アディオン乳剤	3A	ペルメトリン	5	5	○	○					
ガードベイトA	3A	ペルメトリン	5	5							○
モスピラン粒剤	4A	アセタミプリド	1	4※2	○	○	○				
モスピラン顆粒水溶剤	4A	アセタミプリド	3	4※2	○	○	○				
スタークル粒剤 アルバリン粒剤	4A	ジノテフラン	1	3※3	○	○					
スタークル顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤	4A	ジノテフラン	1(定植時)	3※3	○	○					
			2		○						
アクタラ顆粒水溶剤	4A	チアメトキサム	3	4※4	○						
スピノエース顆粒水和剤	5	スピノサド	3	4※5		○	○				
ディアナSC	5	スピネトラム	2	3※6		○	○	○	○	○	
アニキ乳剤	6	レピメクチン	3	3		○	○				
アフーム乳剤	6	エマメクチン安息香酸塩	3	3		○	○	○	○		
エスマルクDF	11A	BT(生菌)	—	—		○※a	○※a	○※a	○※a		
コテツフロアブル	13	クロルフェナピル	2	2		○	○	○			
マトリックフロアブル	18	クロマフェノジド	3	3				○			
フェニックス顆粒水和剤	28	フルベンジアミド	2	3※7		○		○			
プレバソンフロアブル5	28	クロラントラニ リプロール	1(育苗期後半～ 定植当日)	4※8		○	○				
			3			○	○				
ヨーバルフロアブル	28	テトラニリプロール	1(育苗期後半～ 定植当日)	4※9	○	○	○				○
			3		○	○	○	○		○	
プリロッソ粒剤オメガ	28	シアントラニリプロール	1(育苗期後半～ 定植当日)	4※8	○	○	○				
			1(育苗期後半～ 定植時)		○	○	○				
ウララDF	29	フロニカミド	2	2	○						
グレーシア乳剤	30	フルキサメタミド	2	2		○※b	○※b	○※b	○※b	○※b	
ブレオフロアブル	UN	ピリダリル	2	2		○					

※1 粒剤の生育期の処理は1回以内

※2 粒剤の定植時までの処理は1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計3回以内

※3 定植時の土壌混和及び灌注は合計1回以内、散布及び無人航空機散布は合計2回以内

※4 定植時までの処理は1回以内、定植後の散布は3回以内 ※5 定植前は1回以内、本圃では3回以内

※6 定植時までの処理は1回以内、定植後の散布は2回以内

※7 灌注は1回以内、散布及び無人航空機散布は合計2回以内

※8 定植時までの処理は1回以内、定植後の処理は3回以内

※9 灌注は1回以内、散布及び無人航空機散布は合計3回以内 ※a 野菜類登録 ※b はなやさい類登録

ブロッコリー

病害虫名	防除時期及び防除法	使用時期-本剤の使用回数	注意事項
黒腐病	○は種前 耐病性品種を用いる。 ○生育期 1 予防散布を徹底する。 2 発病しやすい品種は防除を徹底する。 3 薬剤散布 Zボルドー 500倍 カッパーシン水和剤 1,000倍 カスミンボルドー 800倍 バリダシン液剤5	--- 7-4 前-3	
軟腐病	○は種前 耐病性品種を用いる。 ○生育期 1 予防散布を徹底する。 2 発病しやすい品種は防除を徹底する。 3 薬剤散布 Zボルドー 1,000倍 スターナ水和剤 2,000倍	--- 14-2	
根こぶ病	○は種または定植前 1 イネ科作物との輪作を行う。 2 土壌消毒（土壌消毒の頁参照） 3 薬剤処理 フロンサイド粉剤 30kg/10a：全面土壌混和 15kg/10a：作条土壌混和 ネビジン粉剤 20kg/10a 作条土壌混和または全面土壌混和	は種又は定植前-1 は種又は定植前-1	
べと病	○生育期 Zボルドー 500倍 ダコニール1000 1,000倍 フォリオゴールド 1,000倍 ライメイフロアブル 3,000倍 ランマンフロアブル 2,000倍 ピシロックフロアブル 1,000倍	--- 出蕾前(収穫21日前)-2 出蕾前(収穫21日前)-2 7-4 3-3 前-2	ダコニール1000とフォリオゴールドの総使用回数は合わせて2回以内。
黒すす病	○生育期（出蕾前） アミスター20フロアブル 2,000倍 ファンタジスタ顆粒水和剤 3,000倍 アフェットフロアブル 2,000倍 パレード20フロアブル 4,000倍	前-3 3-3 前-3 前-3	アミスター20フロアブルは浸透性展着剤との混用を避ける。
アブラムシ類 (モモアブラムシ・ニセアブラムシ・アブラムシ)	○定植時 モスピラン粒剤 0.5g/株 定植前日～定植当日：株元散布 1g/株 定植時：植穴土壌混和 2g/株 スタークル粒剤 2g/株 アルバリン粒剤 植穴土壌混和 ○発生初期 モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍 スタークル顆粒水溶剤 3,000倍 アルバリン顆粒水溶剤 3,000倍 アクタラ顆粒水溶剤 3,000倍 ウララDF 3,000倍 アディオン乳剤 3,000倍	定植前日～定植当日-1 定植時-1 定植時-1 14-3 3-2 前-3 前-2 3-5	モスピラン粒剤の定植前日～定植当日または定植時の処理はどちらか1回。

病害虫名	防除時期及び防除法	使用時期-本剤の使用回数	注意事項
コナガ	○育苗期～定植時 プリロッソ粒剤オメガ 50g/セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊 (約30×60cm、使用土壌約1.5～4L) 本剤の所定量をセル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から均一に散布する。 ヨーバルフロアブル 200倍 0.5L/セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊 (約30×60cm、使用土壌約1.5～4L) 灌注 モスピラン粒剤 0.5g/株 定植前日～定植当日：株元散布 1g/株 定植時：植穴土壌混和 ○発生初期 アファーム乳剤 2,000倍 コテツフロアブル 2,000倍 スピノエース顆粒水和剤 5,000倍 ディアナSC 5,000倍 プレオフロアブル 1,000倍 エスマルクDF 2,000倍	育苗期後半～定植当日 ー 1 育苗期後半～定植当日 ー 1 定植前日～定植当日 ー 1 定植時 ー 1 3ー3 3ー2 3ー3 前ー2 7ー2 発生初期(収穫前日) ー	1 モスピラン粒剤の定植前日～定植当日または定植時の処理はどちらか1回。 2 コナガは薬剤抵抗性が発達しやすいので、系統の異なる薬剤を組み合わせる用いる(コナガ防除薬剤の系統分類の頁参照)。 3 水和剤は展着剤を加用する。
アオムシ	○発生初期 コテツフロアブル 2,000倍 アファーム乳剤 2,000倍 スピノエース顆粒水和剤 5,000倍 プレバソンフロアブル5 2,000倍 グレーシア乳剤 3,000倍 アニキ乳剤 2,000倍 エスマルクDF 2,000倍	3ー2 3ー3 3ー3 前ー3 7ー2 3ー3 発生初期(収穫前日) ー	
ヨトウムシ	○定植時 ジェイエース粒剤 6kg/10a (2g/株) 株元散布 オルトラン粒剤 6kg/10a (2g/株) 株元散布 ○発生初期 マトリックフロアブル 2,000倍 アファーム乳剤 2,000倍 フェニックス顆粒水和剤 4,000倍 エスマルクDF 1,000倍	定植時 ー 1 定植時 ー 1 前ー3 3ー3 前ー2 発生初期(収穫前日) ー	ジェイエース粒剤とオルトラン粒剤の総使用回数は合わせて1回以内。
オオタバコガ ウワバ類	○発生初期 アファーム乳剤 2,000倍 ディアナSC 5,000倍 グレーシア乳剤 3,000倍	3ー3 前ー2 7ー2	アファーム乳剤はオオタバコガのみ適用(ウワバ類の適用なし)。
ネキリムシ類	○は種時または定植時 ダイアジノン粒剤5 4kg/10a 全面土壌混和または作条土壌混和 ○生育初期 ガードベイトA 3kg/10a 株元散布	は種時又は定植時 ー 2 生育初期 ー 5	